

平成23年度

みんなのPTA

福井県PTA指導者研修会報告書

福井県生涯学習センター

はじめに

3・11の東日本大震災以降、家族の「絆」、人と人との「絆」、人と地域の「絆」など、「絆」の大切さが至るところで再認識されています。幸い本県では、多くの世代が共に支え合いながら暮らす「三世代同居」や「三世代近居」の割合が高く、家族や地域のつながり・絆がしっかり残っており、福井の優れた教育を支える大きな力になっています。しかし、本県も核家族化や少子化の進行により、家庭の生活環境や様式の変化など、子ども達を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。このような中、家庭・地域・学校の「絆」を深めるために、大きな役割を果たしているPTA活動の一層の充実が期待されています。

本年度のPTA指導者研修会やPTA活動地区別研修会では、PTAの皆様が主体となって取り組むあいさつ運動、地域の伝統を受け継ぐ活動や地域と連携する活動、保護者自身が子どもとともに成長していこうとする活動など、それぞれの学校や地域の特色を活かしたいろいろな活動内容が発表され、参加者の大きな関心を呼び、意義ある研修会となりました。

この冊子は、本年度の研修会でのPTAの皆様の発表を取りまとめたものであり、皆様の今後のPTA活動の参考として御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、指導者研修会の運営や当冊子の原稿執筆に御協力いただきました皆様方ならびに福井県私立幼稚園PTA連合会、福井県PTA連合会、福井県高等学校PTA連合会に深く感謝申し上げますとともに、本県PTAがますます発展され、地域社会を担う中核として御活躍されることを心から祈念申し上げます。

平成24年2月

福井県生涯学習センター

所長 今 富 廣 子

目 次

福井県幼・小・中 P T A活動研修会

	ページ
【 坂井地区 】	
「城の子の『マイ弁当』」	
坂井市立平章小学校 P T A	1
「親子の夢を育む P T A 活動」	
あわら市芦原中学校 P T A	6
【 丹南地区 】	
「学校と家庭・地域を結ぶ活動」～あいさつ運動を通して～	
鯖江市進徳小学校はぐくみの会	10
「育てよう『赤土の子』、広げよう P T A 活動の輪」	
鯖江市中央中学校 P T A	16
【 奥越地区 】	
「『夢のある“あかるく かしこく たくましい南の子”』を育むために」	
～家庭・学校・地域みんなで子供たちを守り育てよう～	
勝山市立成器南小学校 P T A	23
「地域の伝統を受け継ぐ子ども達を支えて」	
大野市蕨生小学校 P T A	29
【 福井・永平寺地区 】	
「子供のサポートを通して“子どもと共に学び、共に育ちあう”母の会」	
福井市新田塚幼稚園母の会	35
「地域とつながる P T A 」	
福井市円山小学校 P T A	40
「エコキャンドルイベント『Bright Night』～私たちの町に明るい夜を～」	
福井市大安寺幼小中学校 P T A	45
【 嶺南地区 】	
「 P T A ・子どもたち・地区のつながりを求めて～『いかだレース』を通して～」	
敦賀市立西浦小中学校 P T A	51
「『角鹿っ子』のために P T A のできること 伝統を継承している学校」	
敦賀市立角鹿中学校 P T A	56

福井県高等学校 P T A 指導者研修会

【 中央 】	
「武生高等学校の P T A 活動について ～新たな船出 (Take Off) ～」	
福井県立武生高等学校 P T A	59
「高校教育と P T A 活動」	
福井県立福井商業高等学校 P T A	64
【 嶺北地区 】	
「学校教育と P T A 活動 ～学校との連携を目指して～」	
福井県立勝山高等学校 P T A	69
「春江工業高校の P T A 活動」	
福井県立春江工業高等学校 P T A	74
【 嶺南地区 】	
「進路指導と P T A ～敦高 21 世紀塾 S トークの実践～」	
福井県立敦賀高等学校 P T A	78

平成23年度 福井県幼・小・中PTA活動研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演・研修内容	実践発表校
<p>【 坂井地区 】</p> <p>6月25日(土)</p> <p>あわら市 文化会館</p>	<p>講演 『思いやりのあるコミュニケーション』～ 言葉と人間関係～</p> <p>講師 (株)カルチャークラブ北陸 話し方教育センター 所長 栗田 隆司 氏</p>	<p>坂井市立 平章小学校PTA あわら市 芦原中学校PTA</p>
<p>【 丹南地区 】</p> <p>7月2日(土)</p> <p>南越前町 南条文化会館</p>	<p>講演 『出会いを大切に！ 温かな人間関係を築くために』</p> <p>講師 ヒューマンコミュニケーション 米沢研究所 所長 米沢 豊徳 氏</p>	<p>鯖江市 進徳小学校はぐくみの会 鯖江市 中央中学校PTA</p>
<p>【 奥越地区 】</p> <p>7月3日(日)</p> <p>勝山市 福祉健康センター 「すこやか」</p>	<p>講演 『私と高校野球』 ～目標は甲子園、目的は人を育てる～</p> <p>講師 前福井商業野球部監督 北野 尚文 氏</p>	<p>勝山市立 成器南小学校PTA 大野市 蕨生小学校PTA</p>
<p>【 福井・永平寺地区 】</p> <p>7月9日(土)</p> <p>福井県生活学習館</p>	<p>講演 『命のバトン — つながる命 救える命のため—』</p> <p>講師 NPO法人命のバトン 理事長 川崎 眞弓 氏</p>	<p>福井市 新田塚幼稚園母の会 円山小学校PTA 大安寺幼小中学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】</p> <p>7月16日(土)</p> <p>若狭町 中央公民館</p>	<p>講演 『学校での学びとPTA』</p> <p>講師 福井大学 理事 寺岡 英男 氏</p>	<p>敦賀市立 西浦小中学校PTA 敦賀市立 角鹿中学校PTA</p>

城の子の『マイ弁当』

坂井市立平章小学校PTA

はじめに

本校は、日本で一番古いお城である丸岡城の隣に位置し、「平章館」という名で江戸時代の藩校として設立以来、200年以上の歴史を持ち、この学校で学ぶ子どもたちはみんな『城の子』とよばれています。

人間が生きていくための手段の一つとして「食」は生活に欠かせない一番のものといっていると思います。子どもの肥満や偏食、ダイエットのための摂食障害、食物アレルギー、不規則なおやつ、一人での食事や朝食抜きの子どもの増加など、現代っ子の悩みはつきません。大人になってから食生活を変えるのは大変なことですが、身体の形成期である小学校の時期からきちんと食育を受け、私たちPTAが親身になって一緒に学ぶことで、コミュニケーションも深まり、子どもが悩む問題も解決へとむかっていくのではないのでしょうか。本校PTAでは、学校と家庭が連携して親子で食育の大切さを考えられるように工夫してきました。そこで、食育の取り組みの一つである城の子の『マイ弁当』について紹介します。

1 マイ弁当とは

(1) マイ弁当の歴史

- 2001年 香川県綾川町の小学校で「弁当の日」がスタート
- 2005年 福井県の小・中学校2校でスタート
- 2007年 平章小学校でマイ弁当がスタート
- 2008年 福井県で3校が実施
- 2009年 「ふくい食育・地産地消推進計画」で取り組むべき内容を示す
全国で732校が実施 内福井県では6校が実施（平成23年6月現在）

(2) マイ弁当の目的

- ① 学力を支える基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の定着
- ② 児童が積極的に働き、自主的に活動する
- ③ 望ましい食習慣を身につける
- ④ 栄養バランス、地産地消を学ぶ

(3) 活動内容

- ① 対象：5.6年生
- ② 内容：以下のことを自分で行う
 - ・献立を考える
 - ・食材の買い物をする
 - ・調理する
 - ・弁当箱に詰める
 - ・後始末をする
- ③ 実施回数：1年間に5～6回

(4) マイ弁当のレベルアップ

- ① 第1段 弁当食材の三色分け
- ② 第2段 栄養バランスを考える
- ③ 第3段 地場産物・旬の食材を使う
- ④ 第4段 家族のためのまごころ弁当をつくる



栄養バランスを学ぶ



地場水産物（ツバス）を学ぶ

2 本校の取り組み

PTAとしても、各家庭での弁当作りのサポートは勿論のこと、母親委員会を中心にアンケートの実施や広報誌での紹介、給食試食会や食の座談会の開催等、マイ弁当の取り組みの定着に積極的に働きかけてきました。

(1) マイ弁当のレベルアップ大作戦（6年生の取り組み）

5年生では最初のマイ弁当は、自分でおにぎりだけを作ります。その後に家庭科の授業で習う簡単な料理、玉子焼き、野菜炒め、サラダなどから始まり、栄養バランスを考えた弁当につなげていきます。

そんな5年生の経験をふまえて・・・

① 6年生初めてのマイ弁当

献立作成から買い物、調理、後始末のすべてを自分で行うためには、やはり親の協力もなければいけません。親が携わることでいつも作っている得意料理はもちろん、おふくろの味などを子どもたちに伝えていくこともとても大事です。はじめは、親の知恵をかりながら『マイ弁当』の具体的な取り組みを話し合います。そして、マイ弁当前日に、親と一緒にスーパーへ買い出しに行き、食材選びのコツを学びます。

・なるべく国産の食材 ・なるべく地元の食材 ・新鮮なものなど

マイ弁当当日は、早起きをして、自分で作成した献立の調理手順に従って調理します。

② 栄養バランスを考えてマイ弁当を作ろう

マイ弁当の食材を『黄：赤：緑』の3色のグループに分け、栄養バランスがどうかを振り返ります。

授業で食育ボランティアの方に来ていただき、主食：主菜：副菜の比率を3：1：2に整えることで、栄養バランスのとれたいどりの良い弁当ができるというコツを教えてくださいました。

また別の日には「お弁当箱の日」として、食を自分の使っている弁当箱に詰めること毎日食べている給食は栄養バランスが整っているということも学びました。給食が弁当箱に入りきらず、自分が使っている弁当箱小さいと分かった児童もいたようです。



給
で、
て
当
が

給食を弁当箱に詰める

3 『マイ弁当』で身に付いたこと

- ① 早寝早起き
- ② 栄養のバランス
- ③ 地産地消のよさ
- ④ 食事を作る楽しさ・大切さ
- ⑤ 感謝の気持ち

マイ弁当作りを通して、子どもたちはいろいろなことを学んだようで、保護者の皆さんからは、「子どもが一人で調理するのを最初は見ていられなかったけれど、今では食事の手伝いをしてくれてとても助かっています」や、「はじめはとても大変だったけれど、継続することで親子共々身に付くことがあり、良い経験だと思います」といった意見が多く聞かれました。

広報誌に載せたアンケート

これらの経験をこれからの食生活に生かして、心も体も健康に成長して、やられるのではなく自ら行動することを、マイ弁当作りから学んで欲しいと思います。

【質疑応答と意見交換】発表校 坂井市立平章小学校PTA
□発表テーマ 城の子の『マイ弁当』



丸岡南中学校PTA

質問 子どもがお弁当を作ると、どうしてもお肉が多く野菜が少なくなってしまうと思うのですが、お弁当を作るとき、子どもたちに栄養バランスなどの指示やテーマは出すのでしょうか。

回答 「マイ弁当」の取り組みは、自分で作ることが大事なので、はじめは栄養バランスのことは考えずに、好きな物、簡単な物から作るように話をします。だんだん作ることに慣れてきたら、「野菜料理を1品入れてみよう」「栄養バランスも考えて作ってみよう」などの指示を出しながら、毎回テーマを持って取り組んでいます。

坂井中学校PTA

質問 「マイ弁当」の取り組みを始めて5年目ということですが、子どもたちがどのように変わったか、良くなった点などお聞かせ下さい。

回答 私の家での変わったことの紹介になりますが、息子が台所に積極的に立つようになりました。今までは、料理には無関心であって、食事を待っているだけ、出されたものを食べるだけだったのですが、今では「手伝えることはないか」と、台所に立つということに興味を持ち始めました。男女問わず、他の方々からもそのような事を良く聞きます。

春江西小学校PTA

質問 子どもたちにとっては良い経験だと思いますが、最初の頃は、保護者の方の反対意見があつて大変だったのではないかと思います。

回答 今でも反対の意見はあります。特に福井県は共働きが多い県なので、朝は大変忙しいのではないかと思います。バタバタしているのに、子どもに台所に入られると、すご

く邪魔であったり、「早くして!」という感じだったり、とてもイライラするのではないかと思います。しかし、年に5~6回しかない「マイ弁当」なので、その時に初めて台所に立つのではなく、普段から食事づくりなどの手伝いをしていけば、忙しい朝の「マイ弁当」づくりも抵抗なく出来るのではないかと考えています。保護者の方からも、「なぜ忙しい朝に作らなければいけないのか」、「休日に親子と一緒に作るのではいけないのか」、といった意見もありました。やはり日ごろの手伝いも大事なので、「年に数回、お家の方で親子と一緒に料理を作ろう」という企画も取り入れました。なるべく保護者の方に負担のかからないように、学校の方でも家庭科でいろいろな料理の調理実習をしたり、お家の方でも日頃からお手伝いの機会を設けるよう、お願いをしたりしています。少しずつ反対の意見も減り、賛成の意見が増えてきているように思います。

質問 「マイ弁当」を始めたきっかけは？企画や実行に関して、PTAが主体になってやられたのか、どのような取り組みから始めたのか教えてください。

回答 今年で「マイ弁当」の取り組みをはじめて5年目になります。この「弁当の日」を始めたのが香川県の学校で、その学校の取り組みを見て、当時の校長の「学力を支える生活習慣の定着のために、是非本校でもやってみよう」という意見から、PTAの母親委員会を中心に取り組みが始まりました。

質問 PTAの役員の方にも協力してもらったのでしょうか。

回答 各家庭にアンケートを取って、子どもや保護者の感想や意見、取り組みの内容などを広報誌に載せました。また、学校開放日やPTA主催の給食試食会でも、「マイ弁当」の取り組みや食育の事を話題に取り上げています。

最後に、本日の資料の中にある本校の「食育だより」に載っている「一口まきずし弁当」を作った6年生のある女の子ですが、小さい頃から少食で偏食もありました。しかし、「マイ弁当」の取り組みを始めてから、苦手な野菜も積極的に弁当の中に取り入れ、偏食を徐々に克服し、「まきずし」をたくさん詰め、食べる量もすこしずつ増えてきています。

親子の夢を育むPTA活動

あわら市芦原中学校PTA

はじめに

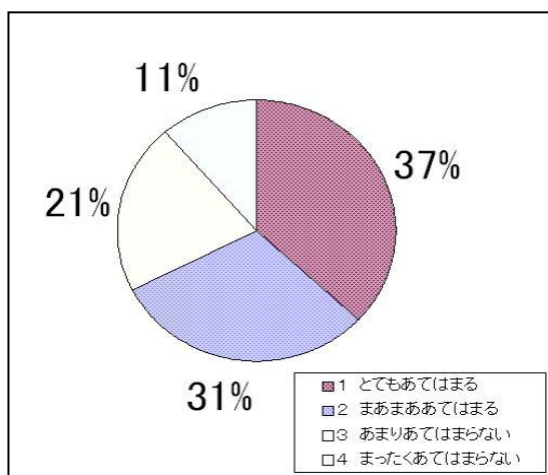
芦原中学校は福井県の北部、坂井丘陵地帯の中にあります。全校生徒314名、PTA会員数322名の学校です。4月から始まる前期、10月から始まる後期の2学期制の学校です。芦原中学校PTAは役員会のもと、環境委員会、育成委員会、広報委員会、母親委員会の各種委員会に分かれています。

1 主題設定の理由

<生徒の意識調査から>

芦原中学校では、毎年6月と11月の年2回、生徒を対象に学校生活や学習についてのアンケートを行っています。

そのアンケートの項目に「あなたは将来の夢や目標を持っているか」という問いがあります。6月のアンケート結果では、生徒が夢や目標を持っていないのでは…と感じさせる集計結果でした。そこで「生徒や保護者、教師に夢を育むようなPTA活動」を合い言葉に各委員会が事業を実践していきました。



生徒集計（6月）

役員会

会長1 副会長5 委員長4 副委員長4
会計2 書記3 参与2 監事2 顧問12

育成委員会

学校教育の内容を会員に伝達するため、学級PTA（研修会）や授業参観、懇談会を通じて学校教育を理解する機会を作る。
・学級PTA・ようこそ先輩
・部活応援活動 30人以内

環境委員会

学校および地域の教育環境整備のため整備作業、校外補導・巡視を行う。
・整備作業・校外査察 60人以内

広報委員会

PTA活動の情報発信基地となり、会員の意識啓発を行う。
・広報誌発行 15人以内

母親委員会

子どもにとってよりよい大人であるための成人教育の場を提供したり、家庭教育の参考となる情報提供を行う。また、交通安全母の会を兼務する。
・交通安全教室・街頭交通指導・研修会 15人以内

その他

ワンコインサポーター事業

「あなたは将来の夢や目標を持っているか」全校

2 活動内容



<役員会；挨拶運動>

前期、後期の始めそれぞれ1週間、PTA役員が中心となり、朝、登校してくる生徒に挨拶を行っています。

この挨拶運動では、生徒とPTA役員とのコミュニケーションが図れる場にもなっています。

朝7時15分からの挨拶運動ですが、笑顔で挨拶を交わしています。この挨拶運動はその後、生徒会が主催する各学級ごと、部活動

ごとの挨拶運動へと引き継がれています。

<環境委員会；春の環境整備>

年2回、6月と8月に環境整備委員会が中心となり、「きれいな環境で学習や生活を送って欲しい」という願いのもと、草取りや溝掃除などの環境整備作業を行っています。昨年度の参加人数は延べ1



50人になりました。普段、生徒だけでは手の行き届かないところを中心に清掃を行っています。

<母親委員会；自転車マナーアップ作戦>

交通安全協会とのタイアップで、5月に自転車マナーアップ作戦と題し、マナー指導や簡単な自転車点検を行っています。安全協会の方に学校にきていただき、「安心して自転車通学ができるように」と自転車の点検もしていただいています。

<環境委員会；空き缶回収>

夏休みには、生徒会と共催で空き缶回収を行っています。勤労の尊さを知ること、地域を自分たちの手できれいにしようという気持ちを育てること、そして、自らの手でリサイクル活動をしていこうという気持ちを育てることをねらいとして行っています。

「まず自分が住んでいる地区から」と、生徒たちは早朝から空き缶を回収します。その空き缶を学校まで運ぶのは環境委員会の役割です。10トントラック2台に山積みになるほどの量が集まります。その収益金で車椅子を買い、社会福祉協議会に寄贈したり、生徒会活動の補助金として役立てたりしています。



<母親委員会；講演会>

母親委員会は保護者を啓蒙する目的で講演会を開催しています。昨年度は10月5日(火)「中学生を持つ親として気をつけなければならないこと」と題し、和田教育研究所所長 和田周平先生を講師にお招きして講演会を開催しました。

思春期の子どもを取り巻く環境や子どもへの接し方について、話をさせていただきました。参加者は約50人、母親だけでなく父親や祖父母の参加する姿も見られました。



<育成委員会；ようこそ先輩>

育成委員会は毎年、卒業生を講師に招き講演会を企画、開催しています。昨年度は11月11日(木)午後、昭和53年に卒業された、大阪日刊スポーツ新聞社 寺尾博和さんから「大海に出でよ!」と題し講演をしていただきました。「努力に勝る天才はなし」「結果を恐れずに一生懸命に取り組むことが大事だ」という話や、「夢の実現について」の話をさせていただきました。

身にしみのお話でした。お話を伺っているうちに涙があふれてきました。子どもは見た目、強がっていても、やはり、親には安心できるようで、一人の人間として接しなければならぬと改めて思いました。命令することばかりではなく、時には子どもに頼ることも大事だとわかりました。

～あるお母さんより～



努力することによってこんなにも進む道が違ってくるのだなと思いました。自分の夢を簡単にあきらめるのではなく、そこでがんばることが夢を実現することにつながるのだなと感じました。寺尾さんの話を聞いて、私も精いっぱい夢に向かって努力し、自分の夢をかなえたいと思いました。

寺尾さんの話を聞いて、将来のことを考えてみようかなと思いました。今の私には将来の夢がありません。小学校の頃から将来のことを考えたことがなかったのですが、今日話を聞いて、いろいろなことに興味を持ち、自分の好きなことから将来の夢を考えていきたいなと思いました。

～1年生の感想～

<広報委員会；ピタゴラス>

広報委員会では年3回、広報誌「ピタゴラス」を発刊しています。生徒の生き生きとした活動の姿が会員に伝わるようにと編集しています。

先生方が中学生時代に夢中になったことや職場体験の様子、3月に発行した表紙には卒業生全員の姿を、そして、「卒業を迎えるわが子へ一言」と題し特集を企画、発行しました。



<ワンコインサポーター事業>

昨年度は「ワンコインサポーター事業」に取り組みました。この事業は「5

00円、つまりワンコインで中学生の活動を支援していこう」という目的で始めました。

部活動にかかるお金への援助をお願いしたいという目的よりも「地域の方々に中学校に関心を持ってもらいたい」という願いがあります。ワンコインを出すことでその使い道に関心を持ち、中学校がどのように活動しているか、どんなところで頑張っているかなど、少しでも中学校に興味を持っていただけたらうれしい。また、登校中の子供たちを見守る視線も変わってくるのではないだろうか。中学生を持つ家族だけではなく、地域の人たちが子供たちにエールを送ってくれたらうれしい。このような願いや思いが「ワンコインサポーター事業」を始めるきっかけです。

活動の結果、昨年度は65万円余りが集まり、そのお金は主に部活動での大会参加のための補助として使われました。また、お金の使い道を紹介した広報紙を作成し、サポーターになっていただいた方全員のお名前も紙面に載せることで感謝の気持ちを伝えました。このチラシは全生徒に配布したり、芦原地区全家庭に回覧していただいたりしました。さらに、地区外のサポーターの方には郵便で送らせていただきました。

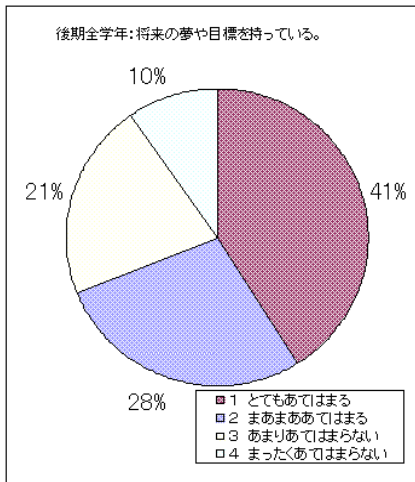
子供たちが小学生から中学生に育っていくにつれ、家族や地域の方々から遠ざかり、なかなか接する機会が少なくなっています。このワンコインサポーター事業を立ち上げたことで、中学生に関心を持っていただき、生徒会活動、部活動を知っていただき、そして、地域みんなで協力し、中学生を育てていければと思います。

一人一人がサポーターになり地域で育て見守っていくことも大事だと感じ、今後もこの「ワンコインサポーター事業」を継続していくことにしています。



3 成果と課題

(1) 成果



「あなたは将来の夢や目標を持っているか」(11月)

全校生徒のアンケート集計結果を6月の結果と比較すると、3年生の意識変化が大きいことがわかります。中学卒業後の進路を自分の夢を見ずえて考えている様子が見え始めるのではないのでしょうか。

生徒の意識がどのように変化したかに注目し、年2回のアンケートを比較すると、例えば、6月には「夢がない」と答えていたけれども、11月には「夢がある」と答え、意識が望ましいと思われる方向へ変化した生徒は全体の31パーセントを占めました。この結果から、PTAや学校の働きかけが生徒に何らかの意識の変化を持たせることが出来るのではないかと考えています。

ベルマーク作業を家に持って帰ってしていたら、子どもから「何をしているの?」と質問され、そこから親子の会話が始まりました。PTAの活動について子どもにわかってもらえたりしたという声が聞かれました。また、環境整備作業や空き缶回収では、親子一緒になって作業をする姿も見られました。さらに、ようこそ先輩で話をして下さった講師の方について、親子で会話が弾んだという声も聞きました。

(2) 課題

① PTA行事へ参加する会員の固定

小学校でPTA活動に積極的に参加していらっしゃる方は、中学校での活動にも積極的に参加して下さっています。幅広くたくさんの方に参加していただくためにどのような工夫をしていけばよいか、模索しています。

② 行事を行う日時の配慮

今年度、春の全体会を金曜日から土曜日に変更して開催したところ、昨年度よりも若干、参加人数が増えました。

③ 地域の人々への周知説明が不可欠

④ 会員からの理解を得るための時間

紆余曲折しながら何とか事業を進めている現状です。しかし、これからも子どもの夢、親や教師の夢、親子の夢を育むことを目指して、試行錯誤しながら活動していきます。

【質疑応答と意見交換】発表校 あわら市芦原中学校PTA

□発表テーマ「親子の夢を育むPTA活動」

芦原小学校 岡崎様

意見 地元の者として、ワンコインサポーター事業は理解しているが、批判の声も中にはあるので、地域の理解を得られるように願いたい。名古屋での更なる発表も期待します。

司会者 佐々木様

質問 空き缶回収と資源回収は違うのではないかと思います。生徒会を中心にPTAがバックアップをして自分の学校でも導入してみたい。ワンコインサポーター事業についても聞きたい。

会長

回答 本年度は地域への働きかけを更に強くして、数多くの回収を目指したい。学校でもカンクールと題して学級ごとにアルミ缶の数を競いながら、8月の回収にも意欲的に取り組んでいる。ワンコインサポーター事業は色々と問題はあるが、子供達の学校での活動も活発になってきているので、会員の中でお互い意思を確認し、意識を統一していきながら取り組みたい。

雄島小学校 寺田様

質問 ワンコインサポーター事業のクレームについて、各地区長や子供会などに働きかけはありましたか。

会長

回答 まず、出発はPTA会員である保護者からということで、確かに回った家、回らない家がありました。保護者からの願いを原則として全戸回りたい。一年一年重ねる毎に、声をかけてくれる地域の人が増えていくのではないだろうか。まだ始まったばかりなので…。

春江小学校 古川様

意見 委員会での事業が重なっている部分があり、ひとつにまとめてみたらいいのではないだろうか？改善を期待し、成果を楽しみに待っています。

学校と家庭・地域を結ぶ活動

～あいさつ運動を通して～

鯖江市進徳小学校はぐくみの会

1. はじめに

〈沿革〉

昭和 63 年 4 月、昭和 50 年代の第二次ベビーブームに伴う児童数増加による鯖江市惜陰小学校のマンモス化を解消し、規模の適正化をはかるために、元鯖江中学校跡地に鯖江市 12 番目の小学校として分割開校する。

開校と共に同年 5 月 PTA（父母と先生の会）発足。平成 13 年より父母と先生の会の名称を「進徳小学校はぐくみの会」に改称する。



進徳小学校

校舎南側には西山公園があり、市街地にもかかわらず自然に恵まれた環境の中、『かがやけ進徳っ子 元気いっぱい 夢いっぱい』を目指す子ども像に掲げて、児童は充実した学校生活を送っている。本年度、児童数 278 名、13 学級。

2. はぐくみの会の組織・概要

総会は最高議決機関で毎年 1 回開催される。会長、副会長、各委員長、校長、教頭で運営委員会を構成し活動の中心を担う。具体的な活動は、常置委員会である総務、地域環境、広報、会員研修、子育ての 5 つの委員会で行っている。各委員会は町内から選出された地区委員と各学年で選出された学年委員が振り分けられ構成される。別に監査委員を設けている（図 1 参照）。

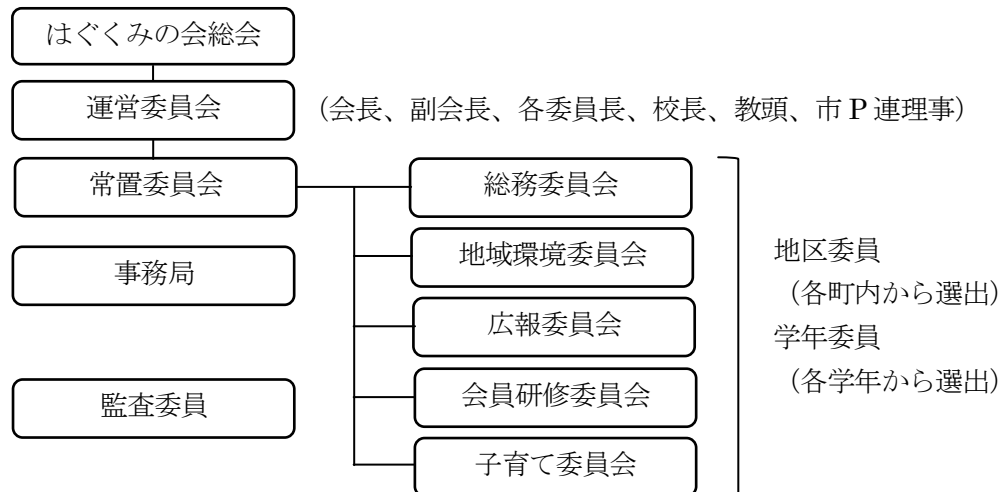


図 1. はぐくみの会組織図

3. 今回の取り組みの経緯

平成 20 年度の運営委員会において、はぐくみの会が主体となって『学校と家庭・地域が一体となった活動』を企画しようという提案があった。同年 4 月、児童の家庭生活に関するアンケートを実施し、その集計を基に、活動のテーマを決定することとした。「あいさつ」、「食育」「読書」、「学習時間」、「テレビ・ゲームの視聴」などさまざまな項目があったが、その中でもやはり「あいさつ」は生活の基本であるという意見が出たため、「あいさつ」をテーマに決定した。以後、3 年間継続して『児童及び会員の「あいさつ」を見直す活動』を企画、実施してき

た。

4. 3年間のあいさつ運動

初年の平成20年度は子育て委員会が企画の主体となり、まず会員に対し「あいさつの実態調査アンケート」を実施した。その後夏休みの期間を利用して「あいさつ標語コンクール」を実施した。年度末に「あいさつアンケート」で活動の評価を行った。つづく平成21年度は地域環境委員会を主体に、ゴールデンウィークを利用して「第2回あいさつ標語コンクール」を実施。2学期には「あいさつエピソード」を募集した。3年目の平成22年度は再び子育て委員会が主体となって、「夏休み あいさつ先生になろう」を実施。また「集団登校時のあいさつ運動」を企画、実施した。

次にそれぞれの企画の詳細を示す。

(1) あいさつ標語コンクール

[目的] 児童及び保護者が標語という形で「あいさつ」に改めて注目し、「あいさつ」について考えることで、児童が明るく元気なあいさつができるきっかけを作る。

[方法] 全児童・会員の参加を期待して、夏休みの宿題という形式にした。児童と家族が一緒に考えた「あいさつ」に関する標語を募集。また同時に、活動をデザイン化したマークもあわせて募集した。役員及び子育て委員で優秀な作品を選定し、2学期から『今月の標語』として毎月1作品ずつ取り上げ、短冊状に印刷したものを地区の掲示板や児童センターなどに掲示した。さらに各家庭にも配布し、児童が家庭内の目立つ場所に掲示した。年度末に優秀作品の表彰（はぐくみの会会長賞、副会長賞、子育て委員長賞、学校長賞など）を行った。



家庭での様子



地域での掲示（西鯖江駅待合室）

[評価] 年度末にアンケートを行って、半年間での児童及び会員の「あいさつ」の変化や「あいさつ」に対する意識の変化を調査した。

(2) あいさつアンケート

[目的] 標語での啓発活動による児童及び会員の「あいさつ」の変化や意識の変化を調査する。

[方法] 会員（保護者）が回答した。結果を集計して各家庭に配布した。

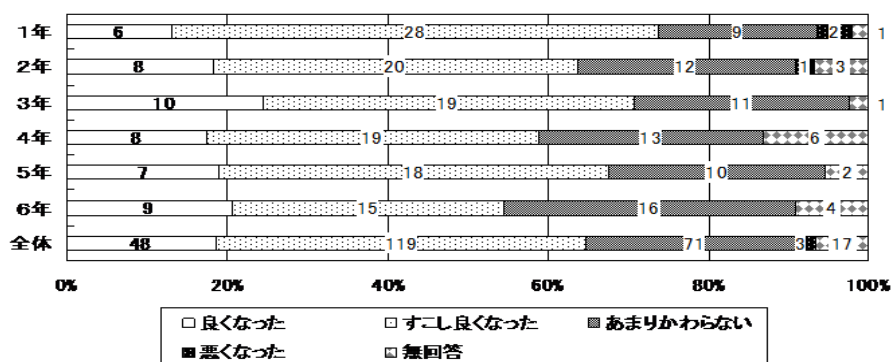
以下にアンケートの設問を示す。

- Q1. あなたのお子様は家族に対してあいさつができていますか？
- Q2. あいさつする時の表情は？

- Q3. 相手の顔を見てあいさつできていますか？
- Q4. 自分からあいさつできていますか？
- Q5. 地域の人にあいさつできていますか？
- Q6. あいさつ別の評価
- Q7. 半年間でのあいさつの変化は？
- Q8. 感想

【結果】 図2はQ7の結果のグラフである。どの学年においても、6～7割の保護者が「子どもたちのあいさつが良くなった」と感じているという結果になった。Q8の感想は後日学校内に掲示した。

図2. Q7 半年間であいさつの変化は？



(3) あいさつエピソード

【目的】 標語による1年間の啓発活動を振り返る。また他の児童や会員の様子を知ることにより一層「あいさつ」に関心をもつ。

【方法】 「あいさつ」に関するエピソード（1年間での我が子の様子や自分自身の変化、周りの子の雰囲気、地域の反応など）を随時募集した。年度末にエピソード集を配布した。

【結果】 いくつかのエピソードを紹介する。

（児童の声）「私は朝、おばあちゃん、おじいちゃんに先に『おはようございます。』とあいさつをします。あいさつは『おはようございます』だけじゃなく、『こんにちは・こんばんは・ありがとう・ごめんなさい』とかです。あいさつすると心が温かくなります。わたしも心が温かくなり、うれしくて今日一日ががんばろうと思います。これから、はずかしくてもがんばってあいさつし、周りを笑顔にしていきたいです。」

（会員の声）「最近近所の中学生にも私の方からあいさつをするようにしています。こちらからすれば、向こうも笑顔であいさつを返してくれます。相手が目下だから、こちらからはしないというのではなく、声をかけたいと思う方から気軽にあいさつをすることで、地域の教育力も高まるのだと思いました。」

（地域での出来事）「土曜日の6時頃、お寺の報恩講で子どもを連れてお参りに行った時のエ

ピソード。法話の始まりにご住職さんが『皆さん今晚は。』と行った時、『今晚は。』と子どもの元気な声が聞こえてきました。お参りの皆さんがどっと笑って子どもに注目、『はっきり大きな声であいさつできてえらいね。』『大人の人も見習わんとあかんね。』と言って感心していました。あいさつの大切さを思い知らされました。」

(4) あいさつ先生になろう

[目的] 児童が家族のあいさつを観察することで「あいさつ」の質を考える。自分が先生になることで積極的な(自分からの)あいさつを心掛ける。

[方法] 夏休み中、各家庭で「あいさつの日」を決めた。1日だけ・毎週日曜日・1週間など、どんな期間でもよいものとした。児童が先生となり「あいさつ」のお手本を見せ、家族のあいさつを評価し成績表(図3参照)にチェック、また感じたことを記録した。



感想の校内掲示→

進徳小学校はぐくみの会			
ほくんち・わたしんちの あいさつせいせき表 年 級 名前			
あいさつができたかチェックして、かぞくの ^{名前} 名前を書いてね			
	よくできた	ふつう	がんばろう
「おはよう」は言えましたか			
「いただきます・いってらっしゃい」は言えましたか			
「ただいま・おかえり」は言えましたか			
「いただきます・ごちそうさま」は言えましたか			
「ありがとう」は言えましたか			
「おやすみなさい」は言えましたか			
あなた(あいさつ先生)が感じたこと		おうちの人から	

図3. あいさつせいせき表

[結果] あいさつ先生になった児童の感じたことをいくつか紹介する。

- ・ママとパパとおじいちゃんはもうちょっと最後までお礼をしてほしいです。
- ・あいさつ先生をして、あいさつがない時はさみしい気持ちになりました。
- ・お手本を見せないといけないと思い、自分からすすんであいさつをがんばりました。
- ・朝はねむそうだったけれど、みんな大きな声であいさつができていました。
- ・2才のおとうとが、いろんなあいさつを出来たのすごいいいと思いました。

このように、声の大きさや表情、お礼をしているかどうかなど、どういうあいさつをするか気持ちよく生活できるかを児童が考えることができた。これらの感想は後日、校内に掲示し授業参観やオープンスクールなどを利用して、会員の目に触れる機会も設けた。

(5) 集団登校時のあいさつ運動

[目的] 朝のあいさつを介して児童、会員同士のコミュニケーションをはかる（≒井戸端会議）。言うなれば「あいさつ」で仲良くなる。

[方法]

毎月2回（10日と20日）、各集団登校班の集合場所に児童とともに保護者も集まり、朝のあいさつなどの声掛けを行った。保護者同士や地域の人とも声を掛け合った。集まった時に気づいたことやエピソードがあれば、後で用紙に記入し報告した。



集合場所での様子

5. まとめ

今回の活動を振り返り以下にまとめる。・はぐくみの会が主体となり「あいさつ」をテーマに3年間活動した。

- ・活動に伴い、児童・会員の「あいさつ」に対する意識が高まり、周囲（家庭・地域）からの評価にも成果が表れた。
- ・今後も家庭・地域と連携して、子どもたちの生活環境がよくなるような活動を続けたい。

【質疑応答と意見交換】発表校 鯖江市進徳小学校 はぐくみの会

□発表テーマ 学校と家庭・地域を結ぶ活動～あいさつ運動を通して～

朝日小学校 木下氏

質問 保護者が率先してあいさつするが、オウム返しに返ってくるだけです。心を開いたあいさつが出来るようになるための工夫を教えてください。

回答 3年前は、子育て委員長だったので、そのときに考えたことはそのような質の高いあいさつを始めから求めるのではなく、「きっかけ」と考えて標語コンクールを実施しました。その後3年かけて、自分の方から心のもったあいさつの出来る子が増えてきたと思います。

質問 続けることの大切さが分かりました。これからも続けていきます。

萩野小学校 石田氏

質問 本校では役員の任期は1年間ですが、今ほどは3年間の取り組みと伺いました。今後も続けて行かれるのでしょうか。また、標語コンクールは定例で毎年行っていくのでしょうか。

回答 運営委員の任期は1年間ですが、実際には2年間、3年間と続けている方もいます。続けて実践して良かったので、今後も何らかの形で続けていってほしいです。標語コンクールは最初の2年間だけです。マンネリ化の傾向も見られました。次の会長や委員長にはまた新しい企画を考えてもらいたいし、何年か後に復活もあります。

□問題提起 P T A主体のあいさつ運動について

惜陰小学校 大平氏

意見 夏休みに家族でのあいさつ運動をカードを使ってしています。自分から、相手を見て大きな声で言えたか等を4観点でチェックしています。

進徳小学校 石本・鈴木

意見 本校は夏休みに、家族で日を決めて実施したが、惜陰小は夏休み全部チェックしたのですか？本校でのあいさつ先生の企画について、副会長の鈴木さんから詳しく話してもらいます。

鈴木 あいさつ先生になろうという企画では、あいさつの意義から考えようということで、強制して行うものでなく、どんなあいさつをされると嬉しいかという視点から企画しました。家族のあいさつを子どもたちが、先生として見ることで、あいさつの意義をとらえることができました。先生になってチェックして、「あいさつがないときみしい」とか、「2歳でできてすごい」などあいさつの本来の意味を考えてもらうきっかけになりました。

石本 最後に、この企画については、市P連の子育て委員会で、どんな企画をしたら良いかを聞いたときに、標語コンクールのことを話題にされて思いつきましたので、市の子育て委員会の皆様に感謝いたします。

育てよう「赤土の子」、広げようPTA活動の輪

鯖江市中央中学校PTA

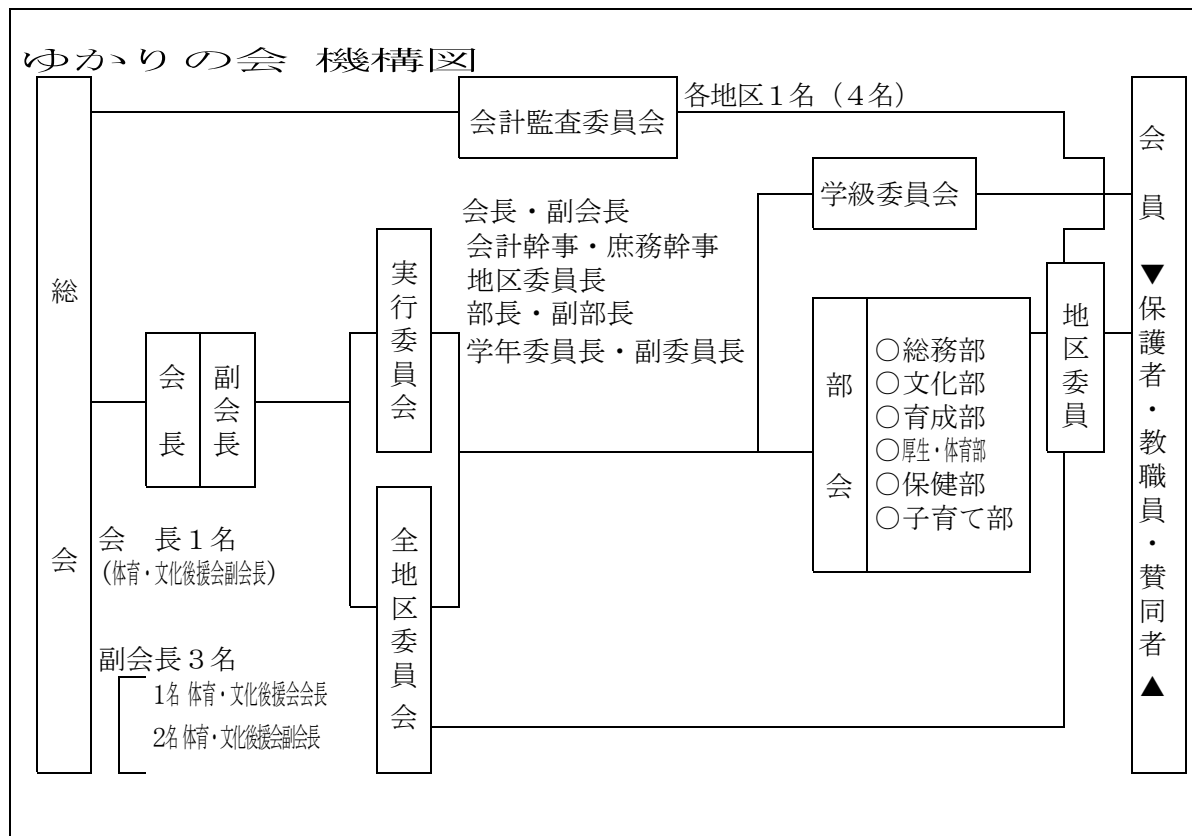
◆はじめに



〔中央中学校正門〕

中央中学校は、昭和22年に旧陸軍鯖江三十六連隊の兵舎を使って創設され、翌23年に中央中学校と改称し、順次校舎が新築されました。当時の生徒と教師とが一丸となり、校舎の整地にあたり、それぞれがスコップや鍬を持ち、赤土にまみれて自らの手で学校をつくりました。それ以来、『「赤土の子」正しく 強く 美しく』を校訓とし、不屈の精神を受けついでいます。また、書面台をかたどった校門は、勉学に励む生徒が育つようとの願いが込められています。現在、全校生徒968名で34学級の、県下最大規模の学校です。

1 本校のPTA組織



※体育・文化後援会……生徒の部活動にかかる費用面を支援したり、好成績をあげた団体や個人を表彰したりします。

2 本校のPTA活動の目標

- (1) 中央中生徒の健全育成を目指した活動を進めよう。
- (2) PTA活動に参加する保護者の輪を広めよう。

3 各部の活動

(1) [総務部]

①「親子クリーン大作戦」の企画と準備をしました。

内 容：夏休み中の日曜日の早朝7時～8時30分に、親子で奉仕作業をしました。

ねらい：年に1回のグラウンド環境整備で、親子と教員が共に汗を流すこと。

②「子どもたちに向けての講演会」の企画・立案・準備・運営

内 容：H22「アーサー・ホーランド」講演 夢を持って生きることの大切さ。

内 容：H23「ESPERANZA」講演 命の大切さ・日常生活への感謝。

ねらい：普段の生活をあたり前のように送っている子どもたちに、自分を見つめ、自分にできることを考える機会を与え、希望を持って生きる人になることを願って。

③「学校祭（体育大会・文化祭）」に校区内の小学生や子どもたちを招待しました。

内 容：校区内の小学生に学校祭の案内チラシを分け、来校を呼びかけました。

当日、PTA役員が、ジュースを無料で1本ずつ配り、応援合戦を見てもらったり、学級のコーナーに参加してもらったりしています。

ねらい：地域の子どもや保護者に、中央中に来てもらい活動に参加してもらうこと。

中学生の活動の励みにすること。PTAにとっては地域の方に来校してもらうこと。

④「冬季スクールバス」の運行を計画

内 容：運行経路や、乗車場所の安全面の確認を事前に行い、冬季のみ運行しました。

ねらい：遠距離から自転車通学をしている生徒の、登下校の安全確保のため。

(2) [育成部]

①「交通安全街頭指導」の実施

内 容：登校時。各部員年間4回。

ねらい：交通安全推進と生徒との交流のため。



[生徒と教員が力あわせて]

②「校区内の危険箇所」の情報収集

内 容：地域の危険箇所を学校へ報告。

ねらい：事故の未然防止のため。

③「夏季休業中の校外巡視」の実施

内 容：夏季休業中にアルプラザほかを巡視。学校祭でも、校舎内外を巡視。

ねらい：生徒の非行防止、安全確保のため。

(3) [文化部]

①「ゆかりの会会報」の発行

内 容：7月と3月の年2回の会報。

ねらい：活動の様子を保護者に知らせ、PTA活動に関心を持ってもらうため。

(4) [厚生・体育部]

①「学校祭バザー」の実施

内 容：メニュー検討。注文のまとめ。
当日の仕分け作業。

ねらい：楽しい学校祭にするための
お手伝い。

バザー収益金を教育活動や環境
整備に還元するため。



[子どもたちが喜ぶメニューを検討]

②「市P連バレーボール大会」に向けての練習会開催

内 容：11月に鯖江市内、幼小中高22チームが参加する「市P連バレーボール大会」の練習会を、中央中PTAでは、校区内の幼稚園・小学校に参加をよびかけ、中央中体育館で夜7時から9時まで4回ほど開催しています。

ねらい：校区内のPTAの交流と、当日に向けての技能向上のため。ここ数年は、PTA活動に関わる人の新たな輪が広がり、楽しい時間となっています。

(5) [保健部]

①「給食試食会」の開催

内 容：給食に関心をもってもらい、
意見をメニューに生かす。

ねらい：食育の大切さを知らせるため。



〔試食会に、男性も多く参加〕

②「健康に関わるアンケート」の実施

内 容：心と体の健康について

ねらい：現状を知ってもらい、意見を
今後の活動に生かすため。

③「学校保健委員会」への参加

内 容：学校の抱える問題について。

ねらい：生徒の心身の健全育成のため。

(6) [子育て部]

①「給食試食会」…… [保健部] と合同。

②「子育て学習会」の開催

内 容：『携帯・インターネット』
『子育ての悩み』『友人関係』

ねらい：経験豊富なカウンセラーを講師
に、役立つ内容を学習するため。



〔子育て部の和やかな学習会〕

③「子育て通信」の発行

内 容：学習会の内容をお便りに。

ねらい：参加できなかった方にも、内容を伝え、関心を持ってもらうため。

4 その他の活動

①「大震災」に関連しての活動

内 容：生徒・保護者・教員での義援金集めをしました。

学級ごとに、色紙に被災地の中学生へのメッセージを記入しました。

保護者に、被災地で不足している夏用体操服の提供を呼びかけました。
川手PTA会長が宮城県を訪問しメッセージと体操服を届けました。

「はーとふるコンサート」の企画と開催（鯖江中・東陽中と協力）をしました。

大船渡市の小中学生にメッセージ付きノートを贈りました。（市P連の事業）

ねらい：みんなの力でできることを考え実践し、復興を願う気持ちを伝えるため。



〔川手会長に色紙を託しました〕



〔生徒一人一人の願いをこめた色紙〕

②「新しい仲間（福島県からの2家族）」との交流

内 容：2年女子Kさん、3年男子Yさんを迎えPTAでできる支援や協力に取り組みました。

ねらい：2家族の方々を、新しい中央中の仲間としてあたたかく迎えるため。

③「修学旅行実施に向けて」3学年委員会の開催

内 容：H21 全国的インフルエンザ発生の中で、実施について検討しました。

H23 震災の影響を考慮し、方面の変更と実施時期について検討しました。

ねらい：大事な学校行事について、PTA会長・副会長と学級委員が、生徒の安全を十分考慮し、学校側と相談のうえ最終決定するため。

④「部活動懇談会」の開催

内 容：5月と11月に、すべての部が夜または、休日に保護者懇談会を実施しました。

ねらい：部活動での不安・誤解・連絡不十分等をなくすため、顧問と保護者が懇談することで意思の疎通を図り、健全な人間形成ができるようにするため。

⑤朝の「あいさつ運動」の協力

内 容：以前から、生徒会役員と先生が毎朝行ってきたあいさつ運動を、毎月2日間は、PTA役員、地域・学校協議会委員、地区青少年健全育成協議会委員も加わり、大人数で、赤いのぼりを20本立てて実施しています。

ねらい：あいさつで、一日のスタートを気持ちよくきってほしい。

生徒との交流を図り、地域でもあいさつできる生徒になってほしい。

校舎正面には、『あいさつは心のかけ橋』の標語が掲げられています。どの家庭でも、「おはよう」「行ってらっしゃい」が交わされるといいと思います。また、生徒に毎朝きれいな校門を通過して登校してほしいとの願いを込めて、2年に1回、地域・学校協議会委員で校門清掃を行っています。

⑥「学校祭」にPTAの立場から協力

内 容：H21・22と鯖江市の広報車で、体育大会当日、校区内をスピーカーを使い、PTA役員と教頭が来校を呼びかける宣伝をして回りました。

H22「文化祭」で、『南極の氷』を展示。来場者に喜んでもらいました。

また、福井新聞社『風の森号』に来てもらい、2年生が学級新聞を発行。

学校祭新聞も発行し、当日見に来れなかった保護者に内容を伝えました。

ねらい：学校祭を地域の人に見に来てもらうため。また生徒のがんばりを保護者に伝えるため。

⑦「学校支援ボランティア」の活動

内 容：神明公民館の除雪機を借りて、学校周辺の通学路や敷地内の除雪をしました。

図書館の本の登録と整理、生徒玄関に生け花。囲碁将棋指導、などをしていただきました。

ねらい：子どもと職員の積雪時の安全確保のため。子どもの活動支援のため。

地域で学校を支援し、先生が子どもと過ごす時間を増やすため。



〔地区体育大会のアナウンス〕



〔地区体育大会の準備係〕

⑧「地域行事への中学生の参加推進」

内 容：地区体育大会ボランティア。近松祭り。光道園コンサート。敬老会などに参加しました。

ねらい：生徒を地域で育ててもらふことと、地域に愛着を持つ生徒の育成を目指すため。

⑨「木水奥右衛門（育男）指導児童画展」開催の後援

内 容：約70年前に、中央中で美術教師として活躍した木水先生の指導した子どもの絵展が、8/6～27鯖江市まなべの館で開催されました。

ねらい：木水先生の「我が家の玄関に子どもの絵を」の言葉に賛同し、明るい家庭作りの一環として、展覧会に足を運んでもらえるよう協力するため。

5 成果

- (1) それぞれの役員が、自分の委員会で、生徒の健全育成を目指した活動を展開できました。
- (2) 保護者の学校への理解が深まり、部活動や行事に足を運び応援する人数が増えました。
- (3) 地域との連携を推進することができ、学校祭を見に来る地域の方が年々増えました。
- (4) PTA経験豊富な役員が、退会後も協力できる体制ができ、大きな力となりました。
- (5) 公民館長を中心に、生徒の活躍できる場の提供があり、活動範囲が広まりました。

6 課題

- (1) 家庭教育の悩みや成功例を気軽に話し合える場を、より多く設けていく方策を考える。
- (2) 生徒のためになり、参加者の笑顔が増えるような取り組みの企画を考える。
- (3) 子どもの活動を親や地域に伝え、さらに中央中の応援団を増やすための工夫をする。
- (4) 保護者や地域の方に、学校の活動に関わってもらふための方策を考える。

7 おわりに



《三六の桜 鯖江市指定文化財》

三十六連隊の兵営が置かれてから100年がたち、昔の厳しい訓練の様子を知る人は少なくなりました。

しかし、桜はすべてを知っていて、毎年、春には美しい花を咲かせ、平和のありがたさを教えてくれます。

1年に一日だけ、家族と桜の木の下でお花見が許されたそうです。

今は、物や時間が豊富で幸せな時代です。皆様のご家庭でも、明るい会話の花が咲きますように。

中央中ゆかりの会は、生徒たちの健やかな成長をこの桜とともに見守っていきます。

【質疑応答と意見交換】発表校 鯖江市中央中学校PTA

□発表テーマ 育てよう「赤土の子」、広げようPTA活動の輪

鯖江中学校 出口副会長

質問 鯖江中学校でも、やしきまつりなど地域行事への参加促進のよびかけを行っている。中央中学校の地域行事への参加呼びかけは、全校生徒に対してか、それとも一部の生徒に対してか。

中央中学校 川手会長

回答 ほとんどの行事で、968名の全員参加は難しいのが現状です。中学校は、地域コミュニティの一つで、PTAは、中学校と地域の方（区長・公民館長）をつなぐ役目と考えています。たとえば、地区の体育大会への参加も、強制でなく緩やかな喚起を促す方向で進めています。今後も、地域の方との連絡や意見交換を密にし、様々な活動を継続し、その同心円を広げ、渦を大きくできると考えています。

鯖江中学校 出口副会長

意見 学校ではできない地域の活動を、今後とも共に広げていけることに期待したい。

□問題提起 保護者や地域の方に、学校の活動に関わってもらうには。

※特に意見はありませんでした。

「夢のある“あかるく かしこく たくましい南の子”」を育むため に

～家庭・学校・地域みんなで子供たちを守り育てよう～

勝山市立成器南小学校PTA

はじめに

勝山市立成器南小学校は、天保12年藩の人材養成を目的に創立された成器堂を前身校として、約170年の長い歴史を持つ小学校です。そして昭和23年に、現在の成器南小学校に改称されました。

現在、勝山市には小学校は9校ありますが、成器南小学校は児童数417名（平成23年4月1日現在）と、勝山市内で最も児童数の多い小学校です。それでも、少子化の波は年々顕著になり、毎年その数は減少の一途を辿っています。

私たちPTAはそのような状況の中、少しでも子供たちが寂しい思いをしないように、また、小学校での良い思い出をたくさん作れるように、親・地域の方々とのふれあいの行事を積極的に取り入れるよう努力しています。そして、成器南小学校のモットーであるところの子供たちが夢を持ち「あかるく かしこく たくましく」育つように、保護者・先生・地域の方々との連携を密にして活動を行っています。

1 活動の背景・目的

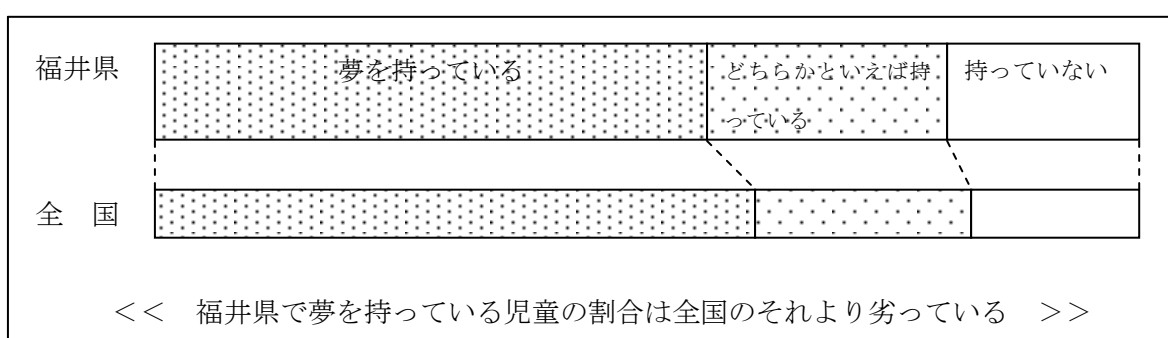
私たちPTAは学校教育目標の『あかるく（豊かな心）・かしこく（確かな学力）・たくましく（健康な体と体力）～自立と共生と夢の力で21世紀をたくましく生きる児童の育成～』を常に念頭におき、保護者・先生・地域の方々協力のもと、子供たちを温かく見守り育てていくことを目指し活動しています。

ただ、近年子供たちを取り巻く環境が大きく変わってきています。テレビゲーム・パソコン・携帯電話など、ひとりで遊べる環境が急激に整備されてきました。また、家庭を含めた生活環境も社会情勢などの影響により、大きく様変わりしてきています。

次第に大人の目が行き届かないところに、子供たちの生活空間が生まれてきているのではないのでしょうか。これは、他人の親切をおせっかいと感じ、互いに助け合う必要が希薄になってきている現在、必然的に子供たちの人間関係をも希薄にさせ、他人との競争意欲もなくし、未来に対する夢を持つことをもなくさせてしまいます。（図-1参照）

そこで、今こそ「集団（保護者・先生・地域の方々）で集団（子供たち）を育成する」ことが重要であるとの認識に立ち、子供・親・先生・地域の方々とのふれあいの場を積極的に取り入れ、その都度、夢を持つことの大切さを理解させることもPTAの目的の一つとしています。

（図－１）将来の夢や目標を持っている児童の割合調査（平成21年4月全国学力調査より）

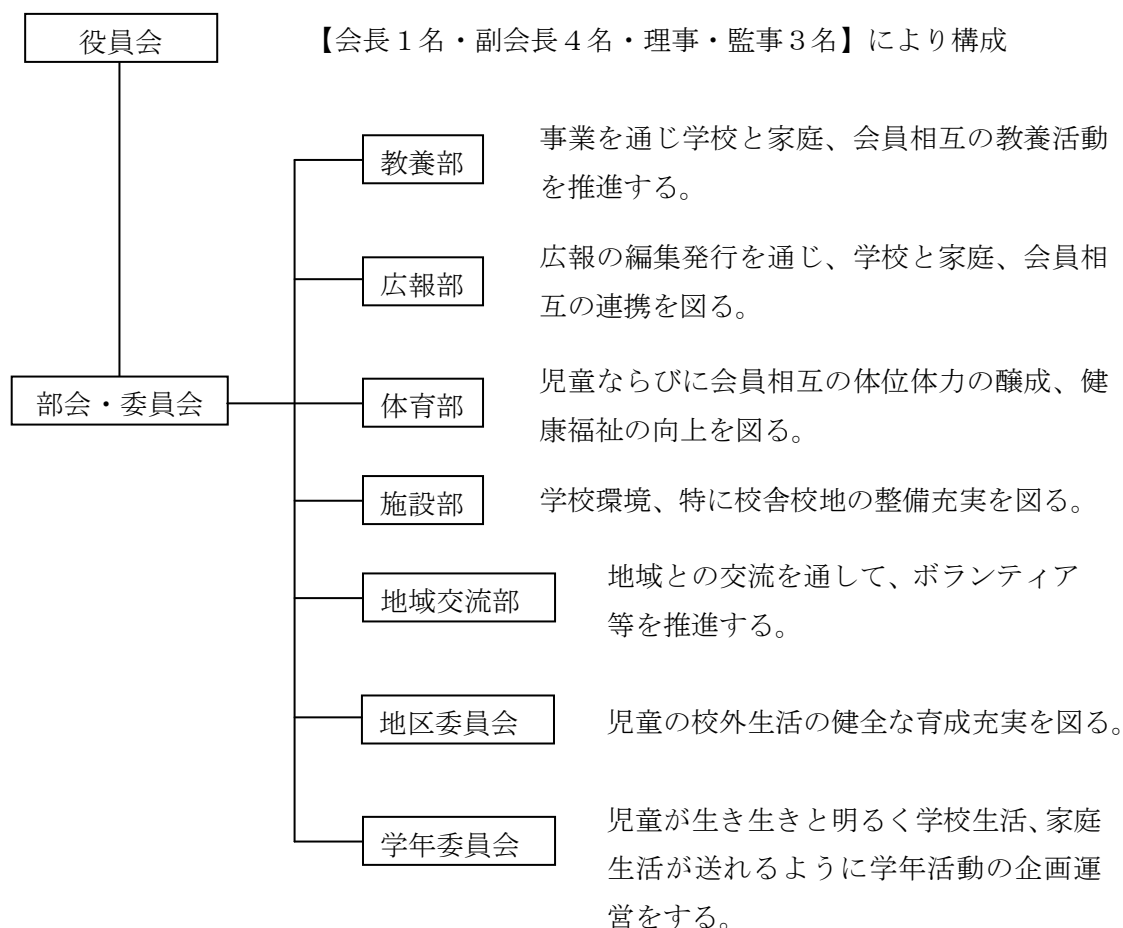


2 P T Aの組織とその役割

それでは、P T Aとしての活動報告にあたり、先ず成器南小学校P T Aの組織および役割を紹介します。

(1) P T A組織とその役割

成器南小学校P T Aの組織および役割は以下のとおりです。



3 「夢のある“あかるく かしこく たくましい南の子”」を育むためのP T Aの取組み

私たちP T Aの各部・委員会での取り組みを紹介いたします。なお、成器南小学校P T Aは各組織が個々に存在し活動するのではなく、相互に協力し合い、時には合同で活動も行っています。

(1) 教養部

教養部では、本来の目的である「学校と家庭、会員相互間の教養活動の推進」の枠を超え、家庭における親と子供の触れ合い活動にも踏み込んだ活動を行ってきています。年2回開催している「家庭教育振興大会」には、保護者・児童の積極的な参加を促し闊達な意見交換なども実施しています。その事例として、

①「ノーゲーム・ノーテレビデー」を実施し、保護者と児童たちとの討論会開催
(平成21年度実施)

各家庭で子供たちが長時間ダラダラとテレビを見たり、ゲームをしたりせず、生活リズムを大切に、親子のふれあいを大切にしてもらいたいという願いを込めてのテーマでした。実際に「ノーゲーム・ノーテレビデー」を実施してもらった上で、賛成派・反対派に分かれてディベート形式での討論会を開催しましたが、双方ともに「一方的ではなく、親子でのコミュニケーションを十分にとり、ルールを決めることが大切である」と結論付けられました。



今回は、親 vs 子ではなく、親子入り乱れての討論会となり、子供たちには自分たちに賛同してくれる大人がいることが分かり、非常に有意義な場となりました。

②「子どもの声が聴こえるようになりましたか？」(平成22年度実施)

～ タオルエクササイズで心のキャッチボール ～

と題し、スポーツインストラクターの先生の指導のもと、親子で楽しくひとときを過ごしました。

親子でお互いの手をマッサージ。あちこちで「あ～、気持ちいい～」の声が聞こえました。

高学年になればなるほど、親と手をつなぐことも少なくなるからか、少し照れながらも一生懸命にマッサージをする姿がちらちらでみられました。



(2) 地域交流部

親子で取り組む活動を通して、勝山市の歴史・文化・観光・産業といった分野に触れ、地域の人たちとの懇親の場を提供しています。

この活動を通して、子供たちに将来の生き方を学ぶ機会を与え、「夢や目標をかなえる力」を自主的・自発的に学べるようになることを期待しています。

最近の活動事例を紹介します。

①はたや記念館「ゆめおーれ勝山」の見学会(平成21年度実施)

勝山市は昔から織物産業が盛んであり、織物の歴史や文化について親子で学ぶ

ことを目的に開催しました。

内容としては、

(ア)「ゆめおーれ勝山」施設見学(ガイドツアー)

(イ)実際にコースターを織る手織り体験

(ウ)「ゆめおーれ勝山」の写生

参加者全員が(ア)～(ウ)をローテーションして順々に体験し、自分で織ったコースターは持ち帰り、描いた絵は「ゆめおーれ勝山」で展示して頂きました。

施設見学や手織り体験では、織物について詳しく学ぶことができ、とても有意義な見学会になりました。



コースター作り
おもしろいね。
(*^。^*)
また体験したいね。

②越前大仏殿での座禅体験(平成22年度実施)

『座禅体験・写生会』を越前大仏で開催いたしました。

テレビ、ゲームが当たり前の日常で、さらに大人も子供も時間に追われがちな毎日。

「座禅」を体験することによって、親子で心を落ち着かせてみようかと計画しました。

大師山清大寺の和尚様よりお説教をいただいた後、座禅体験をしました。短い時間でしたが、静かに心を落ち着けることができました。

その後、大仏殿や五重塔、九龍壁、日本庭園をバックに写生を行い、自分たちの街に存在するりっぱな建造物に感心していました。

足が痛いけど、
動かないぞ!!



(3) 広報部

「成器会だより」として、年3回発行しています。校内での行事紹介・PTAの活動報告などを編集し、南小学校区の全戸にも回覧することで、PTA会員以外の地域の方々にもこれらをお知らせしています。

この広報活動を通して学校・地域との距離を縮め、地域の方々に、より一層学校への関心を高めてもらうことを願っています。

(4) 施設部

春季と秋季に各々作業奉仕を通して、ボランティア精神を教える場としています。春季は、2年生・4年生・5年生の保護者と4年生・5年生の児童に参加を募り、親子で奉仕活動に参加してもらっています。

また、秋季は、1年生・3年生・6年生の保護者と6年生の児童に参加を募っています。親が子供に奉仕の精神を教える良い機会としても活用しています。



4 各地区での活動内容

各地区毎に組織されている育成会の委員と各地区代表の地区委員が中心となって、地域と家庭そして学校とをつなぐ活動を行っています。

その中でも重要な行事として「地区懇談会」があります。全地区を対象として、保護者のみなさん、PTA役員、学校の先生方、見守り隊の皆さん・区長さんをはじめとする地区の方々一堂に会して懇談を行っています。

この座談会では、子供たちと親との交わり方、学校への要望事項、地区の方々からの意見など非常に幅広く議論が交わされます。

そして、各地区で議論された内容は「成器会だより ～地区懇談会 特集号～」として発刊され、各々の地区で話し合われた内容がダイジェスト版で紹介されます。他の地区での懇談の内容を見ることにより、今まで気が付かなかったことや解決策などを参考にすることができます。

5 今後に向けて

現在、勝山市では児童数の減少に伴い「小学校・中学校の再編」に向けた取り組みが行われております。これは時代背景からもまったく拒否できるものでもありません。ただし、人間形成にとってもっとも大事な小学校生活において、外的要因による環境

変化が、子供たちの心に与える影響は計り知れないものがあると思います。

そのためにも、これまで以上に私たちPTAが主体となり、学校・地域との連携を強化し、「夢のある“あかるく かしこく たくましい南の子”」を育てていきたいと思ひます。

【質疑応答と意見交換】 発表校 勝山市立成器南小学校PTA

□発表テーマ 「夢のある“あかるく かしこく たくましい南の子”」を育むために
～家庭・学校・地域みんなで子供たちを守り育てよう～

□問題提起

- ・家庭と学校との距離の持ち方
- ・家庭と地域の方々とのふれあいの持ち方
- ・他人の子どもに対する接し方

尚徳中学校PTA 松田氏

質問 各行事の参加率はどうですか。また、地域住民とふれあう取り組みにはどういったものがありますか。

回答 各行事の参加率に関しては、行事が多様なので一概には言えませんが、学年行事や半日奉仕作業のように学年ごとに親子で参加を企画しているものは参加率が高いです。また、学校で講演会を開催する場合は、日程を授業参観日に合わせ、テーマを子どもにもわかりやすい内容にして親子で参加しやすいものになるように工夫しています。

地域住民とのふれあいに関しては、特に、農村部において子供たちの下校時間に農作業の時間を合わせてもらうなどして、幅広く見守り活動を展開していただいています。また、地区ごとに実施される行事に子供も参加および協力ができるような企画をしてもらい、地域住民と少しでもふれあう機会をなるべく多くつくるよう願っています。

上庄小学校PTA 広田氏

質問 家庭と学校との関係はどうあるべきかに関して、実際に議論されましたか。また、家庭と学校間で何か問題が発生しているならお聞かせください。

回答 議論に関しては、役員会などの席で話題には上がりますが、家庭教育と学校教育のあり方といった深い議論まではしていません。問題というほどのものは生じていませんが、あいさつなどについては家庭と学校のどちらで教育すべきことなのか、垣根がわかりづらくなってきていると思ひれます。

地域の伝統を受け継ぐ子ども達を支えて

大野市蕨生小学校PTA

1 はじめに

《地域の概要・学校の概要》

蕨生小学校は日本百名山に数えられる名峰「荒島岳」の麓にあり、九頭竜川と真名川の二大河川の間位置し学校周辺は緑豊かな水田地帯となっています。また、学校近くの埴安姫神社では五穀豊穡と地域の安全を祈願し毎年4月に地元の若者によって、130年間途絶えることなく

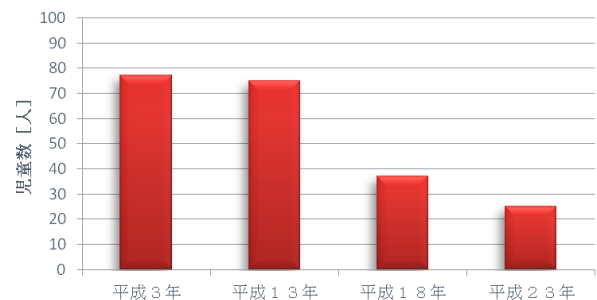
『蕨生里神楽』が奉納されています。豊かな自然と素晴らしい伝統文化を持つこの蕨生の地で、地域の温かいご支援・ご協力をいただきながら、開校以来140年近くの歩みを受け、多くの卒業生を送り出してきました。

地域の『子どもは地域の宝』との思いを受け、蕨生小学校では【ふるさとを愛し大切に育てたい】を育みたいと願い、特色ある教育活動の一環として「ふるさと学習」を進め、全校児童が『蕨生ふるさと探検隊』となり、“ふるさと蕨生”の歴史や自然を学ぶ活動を続けています。



2 PTA活動組織と研究テーマへの取り組み

蕨生小学校も近年の少子化の影響が大きく、この数年間で一気に児童数が減少しPTA会員数も10年前の半分以下となっていました。昨年度までは、総務、文化、子育ての3委員会に分かれ、年間のPTA行事を担当していましたが、今年度は総務・文化と子育ての2委員会となりました。



ほとんどの行事は、各委員会の壁を越え、全会員が一丸となって取り組んでいます。会員相互の絆が強く、どの行事も全会員参加のもと、いつまでも心に残る楽しく意義深い行事となっています。

また、これまでの活動を通して地域全体に培われた『子どもは地域の宝』との熱い思いから、地域の方々全員が準会員となってくださり、「親子奉仕作業」や「資源回収」および「見守り活動」などで、多大なご尽力をいただいています。特に、「見守り活動」については、地域の方々と保護者の強い連携のもと継続的に積極的な活動を進めており、平成18

年には総理大臣表彰を受けています。

このような背景の中で、蕨生小学校では、【ふるさとを愛し大切にする子】の育成を目指し、永年“ふるさと蕨生”の歴史や自然を学ぶ活動を続けています。17年間継続してきた『蕨っ子田での米作り』に加え、7年前からは『蕨生里神楽』の舞とお囃子の伝統を引き継ごうと、地域の皆様のご支援を受け『蕨生里神楽』をやや簡略化した『蕨生子神楽』の練習に取り組み、埴安姫神社での披露をはじめ、「お米フェスティバル（地域の方々を招待しての収穫感謝祭）」や地域の行事・施設等で発表をしてきました。

このような地域性と校風をふまえ、蕨生小学校PTAでは、地域の伝統を受け継ごうと様々な活動に取り組み子ども達や学校の教育活動を支えようと活動を進めてきました。その活動の一端を紹介させていただきます。

3 地域の伝統を受け継ぐ子ども達を支えるPTAと地域の人々

(1)『親子ふるさと巡り』についての取り組み

『親子ふるさと巡り』は、高学年の子ども達が、「お米フェスティバル」で発表した“蕨生歴史博士になろう”を見て、親たちもまだまだ知らないことがたくさんあることに気づき、PTA会員の中から「親子でもっと蕨生のことを学ぼう！」という声が出たのがきっかけでした。

まず、子ども達が発表したレポートを参考に、子ども達の案内で担当の役員が下見に行き、写真を撮ったり移動時間などを調べたりしました。

その情報をもとに役員会で協議をし、埴安姫神社にゆかりのある9つのお堂の中から「薬師堂」、里神楽に使われたと言われるお面を所蔵されている地域の方のお宅、蕨生小学校の前身である唯野小学校の最初の校舎となった「南専寺」、そして蕨生小学校の旧校舎跡地の4カ所を訪ねることにしました。

当日の5月8日は、あいにくの曇り空、また、親子資源回収・親子ふるさと巡り・PTA親子懇親会とかなりのハードスケジュールでしたが、子どもたちは全員参加、会員も両親そろっての参加が多く、先生方も含め60名あまりでの楽しい行事となりました。

最初に訪れた「南専寺」ではご住職から、寺子屋から学校という制度が変わった際、この寺が最初の唯野小学校の校舎として使われたことや大野市文化財に指定されている庭園と桃山時代に創建されたといわれる山門についてお話をお聞きしました。昔のままという山門を指さし、「きっと、昔の子どもたちもこの門をくぐって勉強をしに来ていたのでしょう。」とおっしゃったのがとても印象的でした。



次に、蕨生地区の里神楽に使われていたとされる翁面を保管しておられる大葎原さんのお宅に伺いました。実際にお面を見せていただき、およそ600年前に作られたことや昔は結婚式で若者がこのお面をつけてお祝いしたことなどのお話をお聞きしました。



その次に訪れた蕨生小学校旧校舎跡地では、お父さん達から小学生の頃の思い出話を聞きました。一周100メートルしかとれない狭い校庭で行った運動会がすごく盛り上がって楽しかった事や、木造校舎で冬は寒かったけれど、ストーブの上で焼いて食べた食パンはとてもおいしかった事など次から次へと楽しいお話を聞きました。

最後に「薬師堂」に行きました。そこでは、長らく「薬師堂」の管理をされている城地さんから、おみくじを引き、薬師堂だけがご神体を埴安姫神社に返さなくてもよいと決まった事やその代わりに斧を納めたというお話をお聞きしました。勝山藩のお殿様から拝領したという門なども見せていただきました。



来年度、蕨生小学校は富田小学校と統合になります。子ども達に新しくたくさんの友達が出来ることがうれしい反面、蕨生小学校の歴史が終わり、少しずつ忘れ去られて行くのではないかと寂しく思いました。けれども、この『親子ふるさと巡り』のお陰で、これからは、私たちがこの蕨生の歴史や文化を、子や孫にしっかりと伝えていくことが出来るような気がしてとても意義のある行事でした。

(2)『お餅つき大会』についての取り組み

農村地帯に生まれながら、自宅でのもちつきも機械化され、臼と杵による餅つきを体験したことのない子どもたちが大多数であることを知ったPTA本部役員の発案で、6年前からPTA行事として「お餅つき大会」を実施しています。臼や杵などの用具についてもPTA会員に加え地域の皆様からも借用し、当日も多数の皆様が駆けつけてくださる伝統の行事となりました。

昨年度も、2月25日に学校開放日として午前中に「お餅つき大会」を実施しました。保護者並びに祖父母の方々さらには地域の皆様が朝早くから会場設営や準備に取りかかってくださり、10時頃には体育館に餅米の蒸し上がるおいしいにおいが広がり



ました。杵の使い方を教えていただいたり、臼取りをしながら声かけをしていただいたお陰で、子ども達はお餅をついたりお餅を丸めたりと、日頃できない体験をさせていただくことができました。みんなで力を合わせてついたお餅は、きなこ餅、おろし餅、すりごま餅の3種類の味付け餅にして食べさせていただき、白丸餅はおみやげとして家へ持ち帰ることができました。児童にとっても保護者並びに祖父母の方々さらには地域の皆様にとっても思い出に残る楽しい日となりました。

(3)『蕨生子神楽』についての取り組み

蕨生小学校では、2005年より「子神楽」に取り組んでいます。元々は地域の学習の一環として、蕨生の伝統行事である「里神楽」をテーマに選んで調べ始めたことがきっかけで、「総合的な学習の時間」の取り組みとしてスタートしました。

大野には現在、篠座、木本、稲郷、蕨生の4地区に「里神楽」が残っています。他の3つのものと比較して特長的なのは爺と婆の存在です。この老夫婦を登場させ、ピエロのような滑稽な動きをさせることで各場面を生き生きと盛り上げる事が出来る上に、アクシデントに対応しやすいように裏方としての動きもさせています。

「里神楽」のことを調べていくうちに子どもたちも「里神楽」を演じてみたいということになり、いろいろな課題を前に試行錯誤を繰り返しながら「子神楽」が誕生しました。

まずは道具です。獅子頭など古くなって使わなくなった「里神楽」の道具を転用しました。足りないものは笛・太鼓など市販のものを見つけてきました。衣装も子ども用に簡易なものを用意しました。

次は時間です。「里神楽」では40分程度かかるものを、要所を整理することと機敏な動きやセリフの単純化で10分程度にまとめることが出来ました。お囃子（笛と太鼓）についても大人のをそのままでは難しいため、元の曲を採譜し、親しみやすく覚えやすい旋律にアレンジしました。

これらの課題の解決には「里神楽」を演じている一般の方のアドバイスをもらうことが良いだろうということで「里神楽」の経験者であるPTA会員の参加も始まり「子神楽」の形が整っていきました。

こうして、例年、数回はPTA会員による指導や説明を行なうようになりました。最初は高学年だけで始めた「子神楽」も少子化の影響で低学年も参加するようになり、練習も発表も全校児童で取り組むようになり、特色ある教育



活動として「ふるさと学習」を進めていく中で、その中核をなすものとなっていきました。これまでも、埴安姫神社での披露や「お米フェスティバル」での発表をはじめ、地域の行事や施設での披露などもあり年間4～5回は「子神楽」を発表する機会があり、子ども達の中にも「蕨生里神楽は私たちがしっかりと受け継いでいきます。」という思いが年々高まってきました。



そんな中で、去年は「越前大野城築城430年祭ふるさとステージ」で、先の4地区の「里神楽」に加え、「子神楽」を発表することになりました。「子神楽」の完成度を更に高めたいとの思いから、PTA会員の中から、役者とお囃子の経験者を募り、役者はマンツーマンで、お囃子も時間を掛け、一人ひとりに合わせた声かけが出来る練習会を持ちました。それぞれの役割でのアドバイスのほかにも全体を眺めた連携やポイントを押さえることでスムーズな進行ができるようになり、完成度がどっと高まりました。

それぞれの経験者である大先輩から細かい指導をしていただいたことで、子ども達も自信が付き生き生きと演じられるようになりました。

また、ふるさとステージの当日は、家族総出で応援に来ていただいたのはもちろんのこと、衣装の着付けや道具の運搬などにも積極的にご協力いただき、まさに親子が連携しての「子神楽」の発表となりました。



4 成果と課題

これらの活動を通しての成果と課題について述べさせていただきます。

【成果】

- ・「蕨生子神楽」、「もちつき大会」そして「親子ふるさと巡り」等の活動を通して、親子共々地域とのつながりを再認識し、地域の一員である事の意識が高まり、ふるさとを愛し、大切にしていこうという思いがより強まったように思います。

- ・活動を企画し運営していく中で、家庭でも地域の自然や歴史についての話題が出るようになりました。親子あるいは家族に共通する話題であるため、家庭内の会話も多くなったように思います。
- ・特に「親子ふるさと巡り」については、親の世代もよく知らなかった地元の歴史を地域の方から学ぶことが出来、今度は自分達が子や孫に伝えていかなければ・・・という思いが強くなりました。自分の立ち位置がわかり、これからの自分の生き方を見つめ直すよい機会になりました。

【課題】

- ・「蕨生子神楽」、「もちつき大会」そして「親子ふるさと巡り」等の活動を通して、子どもたちも保護者も地域の一員としての意識が高まり、文化や伝統を受け継いでいこうという思いが高まりましたが、統合により地域の核となる学校がなくなることで、「蕨生子神楽」をはじめとする伝統文化をどのようにして継承していけばいいのか・・・。児童も保護者も地域も困惑している事です。今後は地域の方々と連携しながらよりよいあり方を模索していきたいと考えています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 大野市蕨生小学校PTA

□発表テーマ 「地域の伝統を受け継ぐ子ども達を支えて」

□問題提起 「地域の方々と連携しての地域を舞台としたPTA活動のあり方について」

上庄小学校

質問 地域の方々が準会員としてPTA活動を支えて下さっているとの事ですが、準会員とはどのような方ですか。

回答 校区在住の方で、家庭の中に本校に在籍している児童はいないが、PTA活動の趣旨にご賛同いただき、その活動を支えて下さっている方々です。

質問 何か特別な勧誘活動をしているのですか。

回答 地域全体に、「子どもは地域の宝」との熱い思いがあり、特別な事はしていませんがほとんどの方が準会員となって下さっています。活動をお伝えする為、PTA各種資料・学校だより・PTA新聞等は校区内の全戸に配布していま

す。

質問 見守り隊への参加はどのような形をお願いしているのですか。

回答 毎年、年度初めにPTAの子育て委員が継続のお願いをしています。

質問 「子神楽」の衣装や道具の費用はPTA会費から出しているのですか。

回答 PTA会費からも補助していますが、地域や各種団体からの協力等もあります。

質問 来年度以降、「子神楽」はどうなるのですか。

回答 何とかして継続していきたいと考えていますが、今はまだはっきりとした方向性は出ていません。今後、関係機関と検討を進めていきます。

成器西小学校

質問 「里神楽」は神事ですが、それに取り組むことに保護者等からクレームはなかったのでしょうか。

回答 総合の学習の中から児童の希望によって始まった事で、「里神楽」を子どもなりの解釈で再構成してあったり、型にこだわらず独創性を大切にしていることで保護者等のクレームはほとんどでませんでした。

質問 来年度、学校再編により富田小学校と統合となりますが、統合に向けてPTAとして何か取り組まれていることはありますか。

回答 子どもと一緒に、多くの保護者が新しい環境に入っていくことに不安があります。学校及びPTA行事についての資料を配布したり、児童の交流行事や交流授業への参観を勧めたりして会員の不安を解消していきたいと考えています。両校合同のPTA役員会等でさらに今後のPTA活動のあり方等を検討していく予定です。

子供のサポートを通して

“子どもと共に学び、共に育ちあう” 母の会

福井市新田塚幼稚園 母の会

はじめに

新田塚幼稚園は福井市明新地区に昭和44年に設立されました。「親鸞聖人の生き方に学び、尊い命にめざめ、共に育ちあう」の理念のもと、仏教精神に基づき、心身ともに健やかな子どもの成長を願い、幼稚園教育に取り組んでいます。



運動・言葉はもちろん、物の考え方、受け取り方など人間としての豊かな心（ありがたいのいっぱいあった心）の根っこが育つ、生涯で最も大切な土台作りの時期を家庭と幼稚園とが一体となって、家族園目指して取り組んでいます。

1 PTA 役員構成

平成23年度母の会役員 総数50名

会長 1名 ・副会長 2名 ・一般会計 2名

特別会計 2名 ・書記 2名

各係 やまびこクラブ 2名 ・資源回収 3名 ・マミーズブック 5名

サークル活動 4名 ・母心聞 4名

2 活動内容

(1) 各係の活動

- やまびこクラブ —— 交通安全のための研修等を行っています。
- 資源回収 —— 古新聞、空き缶、エコキャップ、牛乳パックを常時回収しています。毎週水曜日には園児用にワニBOXなどを出して関心を高めてもらっています。
- マミーズブック —— 保護者を対象として、仏教コミック（全109巻）を貸し出ししています。隔週で貸し出し、返却を行います。

サークル活動 —— 保護者やOBなどが先生となり、サークル活動を行っています。今年度はパン、スイーツ、ヨガ、トールペイントなど8種類あります。各教室が月に一度程度行われます。

母 心 聞 —— 毎月発行されます。2部構成で、「家族の気づき」は子どものお誕生月に投稿をお願いし、「母のつぶやき」は心に浮かんだつぶやきを常時寄せていただいています。

(2) バザー

新田塚幼稚園のバザーは母の会主催の行事で、母の会が中心となって全員参加のバザーを開催します。

目的は、役員同士の絆を深め、バザーの収益は子どもたちの保育環境をよりよくしていくために還元されます。毎年盛況に開催され、多くの方にご来場いただきます。毎年、役員が決まってすぐにバザーの準備に取り掛かります。まず、コーナーを決め、担当を決め、それぞれに各コーナーの詳細を考えていきます。役員同士が協力しあい、準備を進め、当日を迎えます。当日は先生方、保護者父親有志の「おやじの会」のご協力をいただき、また役員以外の保護者の方にも一時間程度のお手伝いをお願いしています。全員参加のバザーになるように、ほぼ全園児の保護者にご協力いただいています。他にもバザーでご協力いただいていることとして、マイ箸運動、マイバッグ持参、ゴミの持ち帰り、食後の台ふき、下足袋持参などの用意をいただいています。大人のマナーを子どもが見ていると感じていただき、ご協力いただいています。防犯対策としては、幼稚園内外に警備員をお願いし、入場に関しては園児と一緒にご来場される方以外は、お名前のご記帳をお願いしています。

人数が多いのでコーナーもゲーム6コーナー、食品、喫茶、物品販売ととても充実していて、子どもも大人も楽しく過ごしていただいています。各コーナーとも役員のいろいろなアイデアで手作りの温かいコーナーが催されています。その中でも、「おはなしひろば」は立見が出るほどの人気があります。幼稚園の食育と連動させまして、コーナー担当者が台本を作り、作詞・作曲した歌を歌い、子どもに見やすく、覚えやすい内容を心がけて劇をしていま



す。バザーを通して、役員同士や親子のコミュニケーションが多くなり、絆が深まり、共に学び、育っていくことを実感しています。

(3) ソフトバレーボール大会への参加

私立幼稚園ソフトバレーボール大会に毎年参加しています。勝負があるリーグ戦と勝負にこだわらないフレンドリーマッチに参加します。役員ではない保護者からも参加を募り、出場する役員とともに体育館等で練習をして、絆を深めています。大会前には他園と合同練習や練習試合を行っています。本番では楽しんでゲームに参加しています。

3 幼稚園行事サポート

母の会がおやじの会にも協力していただき、幼稚園行事の前準備、当日の運営をサポートしています。

(1) 運動会

毎年秋に運動会があります。母の会として、子ども管理、道具の出し入れ、進行として時間管理やアナウンス等を行います。おやじの会には当日の道具運びを協力していただいています。夏休み明けに各係の担当者を決め、運動会2週間ほど前から準備に入ります。幼稚園から台本をいただき、子どもの練習時に参加して、道具の出し入れ、子どもの動きなどを確認していきます。当日は役員全員で運動会を全面的にサポートしています。防犯対策として、警備員をお願いしています。



(2) 生活発表会

毎年年末に生活発表会があります。1クラス2回ずつ程度の出番があります。母の会は運動会同様、練習時から道具や子どもの衣装等の管理、放送などを準備していきます。会場が文化会館のため、前日準備におやじの会に協力していただき道具等を運びます。幼稚園で道具の設置等を練習していても会場が違うので、前日に道具を全部出し入れして場所や出す時間等の把握をします。衣装も全園児分なので数や場所を間違えないように用意していきます。当日の裏方はすべて役員が行い、全面的にサポートします。防犯対策として、入場時にクラスと名前が入った手作り入場券を提示していただき、警備員をお願いしています。



(3) もちつき大会

毎年1月にもちつき大会を行います。報恩講に合わせて親鸞聖人がお好きだったぜんざいをつくるための餅つきです。母の会として、朝からもち米を蒸し、子どものもちつきをサポートします。全園児がもちつきを体験している間に、役員は子どもがお昼に食べる餅、持ち帰る餅を作ります。人数が多いので作る数も相当になります。子どもは楽しくもちつきをして、おいしくいただきます。



おわりに

新田塚幼稚園は全園児数270名を越す大人数なので、役員も多くなります。仕事や家庭の用事等がありますが、役員の仕事、幼稚園行事へのサポートを通して、役員同士のコミュニケーションの大切さを実感し、絆を深めています。発表テーマの通り、母の会、幼稚園、子どもが共に学び、育ちあうという環境は、正に家族園だと思います。大事な幼児期だからこそ、深く関り、子どもと共に成長していけるように、これからも活動を続けていきたいと思えます。

平成22年度新田塚幼稚園バザー おはなしひろばコーナー

「バナナうんち」のうた

作詞・作曲 園児の母

まごこはやさしい たべものさ
バナナうんち うんち
きょうのうんち うんち
どんなのがでたか おしえてね

まめまめ ごま こめ わかめ
やさいに さかな しいたけ いもいも
たくさん やさい ならんだね
それをたべると
げんきもりもり もりもり もりもり

バナナうんち うんち
きょうのうんち うんち
どんなのがでたか おしえてね



まごこはやさしー たべようね
まごこはやさしい たべものさー

この他に・・・

おはなしひろば続編 ～おはなし五臓六腑（お誕生会にて）～

「まごこはやさしい」 ・ 「からださんありがとう」

平成23年度バザーおはなしひろばコーナー「げんきせんたいゴゾウレンジャー」

があります。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市新田塚幼稚園母の会

□発表テーマ 子供どものサポートを通して“子どもと共に学び、共に育ちあう”母の会

藤島幼稚園 梅田さん

質問 藤島幼稚園も新田塚幼稚園と同様、生徒数の多い幼稚園であるため、役員の仕事が大変という噂が先行し、学級委員を選出するのが難しいが、どのように選出しているのか？

回答 先生の声かけはもちろんのこと、仕事を持っている方やお子さんが小さい方でも無理なく出来るように連携を取り、楽しく行事に参加できるように心掛けている。

聖三一幼稚園 前田さん

質問 おやじの会など父親に参加してもらうには、どうしたらいいのか？

回答 お便りを出し、おやじの会への参加を呼び掛けている。月に1度PM7:00から集まり、子どもの話をしたりして交流を図っている。行事へ当日だけ参加する方もいる。

梅園幼稚園 齋藤さん

質問 バザーなどの時に、役員ではない方の手伝いをどのようにお願いしているのか？

回答 全園児対象にお便りを出し、父親が参加、母親が参加、両方参加など希望を提出してもらっている。それを役員が集計し、お手伝いの場所や時間を連絡している。バザー当日は1時間程度それぞれのコーナーを手伝っているが、子どもを背負いながらしている方もいる。父親の駐車場の誘導なども含め、全員参加を目指している。

地域とつながるPTA

福井市円山小学校PTA

はじめに

本校は福井市東部に位置し、校区には国道8号線沿いの会社、商店が立ち並ぶ市街地と田園地帯が広がっています。全校児童509名で学級数が20あります。

平成20年度より文部科学省の「学力向上実践研究推進校」の指定を受け、「学ぶ楽しさを実感しながら確かな学力を身につける子どもを育てる」を研究主題として、読解力の向上を目指す授業や読書活動の推進などを行ってきました。

おもなPTA活動

円山小PTAには「厚生部」「補導部」「広報部」「コミュニティ部」の4つの部があり、それぞれ活動をしています。加えて、この4つの部をまとめ、決定機関としての「執行部」があります。

「執行部」

会長1名、副会長2名を含めて総勢16名（平成23年度）で構成しており、執行部会を開いてPTA活動についてのすべてを決定していきます。一大イベントの“円山小バザー”についても企画・運営します。この執行部会は定例のものではなく、会長の「執行部会やるぞ！」の一言で開催されます。ちなみに例年12～14回ほどの回数になります。

「厚生部」

年2回の資源回収、年間通してのアルミ缶回収、インクカートリッジ回収を担当しています。これら収益事業により、学校図書購入、施設の改善など学校環境を良くするための予算を確保していきます。約30名でこの活動を仕切っています。

「補導部」

年間通しての旗持ち当番の段取り、夏休みの巡回補導を担当しています。子どもたちの安全について考え、約20名が活動しています。

「広報部」

PTA広報誌を年2回発行します。平成23年度は臨時増刊号も発行しました。

「コミュニティ部」

地域の方が代表となり、地域の方が先生となる「円山コミュニティスクール」という活動があります。コミュニティ部はその運営のお手伝いをしています。毎週土曜日の午前中に子どもを集めておこなう、工作・料理などの体験型教室です。PTAが企画する回もあり、盛り上がっています。約60名で活動しています。

地域とつながるPTA

PTA活動の中で、“円山コミュニティスクール”と“円山小バザー”についてもう少し詳しく説明します。この2つの活動はとくに地域の方の協力があってこそ成り立つものです。

「円山コミュニティスクール」

平成14年度から学校が週5日制になるということで、土曜日の活用についていろいろな意見が出ていたようです。当時のPTA役員と地域の有志の方々とで話し合いを持つ中で、「土曜日の午前中に学校のようなことができないか？」そんな意見が出て、「児童を集めてやってみよう！」とコミュニティスクールを立ち上げる計画をしていました。平成13年を助走期間とし、地域とPTA、学校をつなぐイベントを何度となく開催しました。そしてようやく平成14年、学校の週5日制スタートに合わせて、コミュニティスクールもスタートすることができました。

よく考えてみたら、スゴイことなのだと気付きます。事務の取りまとめや実際の運営をしてくださる“地域の方々”、それを手伝う“PTA”、そして教室を使わせてくださる“学校”のすべてがそろわないと出来ない事業なのです。

それ以来、年末年始と年度替わりの数週を除いて毎週開催しており、平成23年度は45回の開催となっています。そのうち、13回をPTAコミュニティ部が企画・運営を担当します。また、2回は児童が企画・運営をする回があります。残りの30回については、地域の方が先生となったり、外部講師を依頼しての開催となります。この30回と児童企画の2回においてもPTAコミュニティ部がお手伝いとして運営に携わっています。

さて、どのような体験型教室を開催しているかと申しますと・・・

<工作>

切り絵　ちぎり絵　バルーンアート　厚紙ロボット　ストローおもちゃ　ミサンガ作り
などなど・・・

この写真は
「ちぎり絵教室」の
様子です。右側の
おばあちゃんが先生
です。



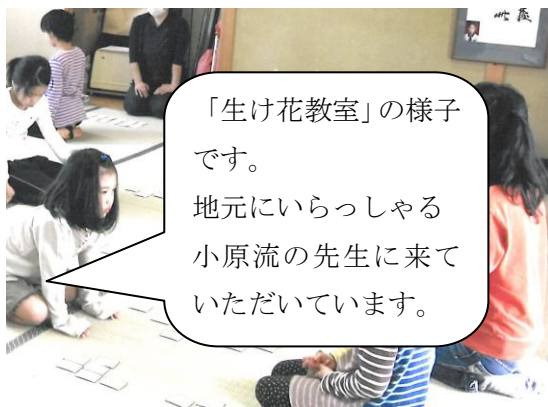
<料理>

冷やし中華 カレーライス プチシュークリーム バレンタインチョコ お魚料理
ちっちゃなドラ焼き などなど・・・



こちらは、
「お魚教室」。
魚を三枚におろしてい
ます。右側のおばあち
ゃんが先生です。

ほかには、<生け花> <百人一首>が通年行われています。



「生け花教室」の様子
です。
地元にはいらっしゃる
小原流の先生に来て
いただいています。

「百
県の
いま

このような感じで、毎週開催しております。参加する児童も年々増えており平成 22 年度は延べ人数で 2,134 人となり、平均で毎回約 50 人です。ここまでの大きい事業となると、大変そうなイメージがありますが、実際やっている P T A 役員に聞くと好評です。充実感があるようで、終わってみれば“楽しかった”という感想を聞くことができます。

「円山小バザー」

毎年、11 月の第一日曜日に開催しております。この売上は、P T A 活動、学校図書購入、環境整備などすべてに影響をあたえます。前段の「円山コミュニティスクール」の費用もあります。ですから、みんな真剣にやっています。売上げが必要です。

そのバザーの内容は、地域の皆様からご協力をいただき集めさせていただいたバザー品の販売です。これがメインとなります。このバザー品は校区内にある企業や店舗からもご協力いただく場合もあり、大変助かっております。P T A 役員が各地区、各家庭を回って集めるのですが、小学校のバザーだからと言って、それこそ家探しをしていただいてご協力いただいています。

そのほかでは、飲食コーナーとお祭り広場（ゲームコーナー）があります。飲食コーナーについて、少し説明します。

飲食コーナーでは、実際の人気店から仕入れをしているラーメン、シュークリーム、焼き鳥を販売しています。こちらは安定した売上げがあります。

また、ジュース、コーヒー等の飲み物は当然のように売れますし、フランクフルトも抜群の売れ行き、ソフト麺（今年はカレーソース）も大人に大人気です。

ここでも地域の方が大活躍です。おはぎ、ちらしずしなどの手作りの物も販売させていただいています。

まとめ

小学校と地域とは密接な関係性があります。公民館との関係性もあります。ですから、P T A は P T A のことだけ考えて進めていっては何もできないのです。P T A だけでは出来ることに限界があります。広がりがありません。

やはり、地域の皆様あつての P T A なのです。

「円山コミュニティスクール」はスタートして 10 年になります。このままでいいのか？このまま続けていけるのか？・・・と悩んでいます。

体制としては整っています。現在は理想的な状態なのです。ただ、地域の特定の方に頼ってしまっている状況ですので、気がかりなことも出てきます。

すべてを P T A で引き受けるということもなかなかできませんので、悩ましいところです。円山小学校に定着した「円山コミュニティスクール」をこれからもずっと継続してい

きたいと思っています。

【質疑応答】発表校 福井市円山小学校PTA

□発表テーマ「地域とつながるPTA」

湊小学校PTA宮下氏

質問 バザーの収益の内容比率を教えてください。

回答 バザー物品販売で4割程度、後は飲食コーナーです。

バザーの雨天対策の質問回答

- 公民館と協力し合い開催
- ステージ発表等のイベント開催

福井市PTA連合会顧問 大島氏

参考意見

- 食券(前売り券)を粗利の高いものを前売りする⇒手作り品(もちつきをして、餅を販売)
- バザー品を新品に限定せず、リサイクル品も扱う。修理をして販売。古着なども扱う。

エコキャンドルイベント「Bright Night」

～私たちの町に明るい夜を～

福井市大安寺幼小中学校 PTA

はじめに

大安寺幼小中学校は児童生徒数が少なく、小中併設校であり、PTA も幼小中学校合同であるという一部特殊な環境です。しかし、私たちは子どもの数が少ない事が必ずしもマイナスであるとは考えていません。人数が少なければ、何かを成し遂げるときに担う役割も多くなり、子どもの成長に役立つ事も多くあると考えています。

与えられた環境の中で、子どもたちが自分たちの力で何かを成し遂げる喜びを感じてもらえる機会を新たに創出できないかと考え、子どもたち中心の「エコキャンドルイベント」を計画しました。

なにぶん初めての試みでもあり、苦勞する点もありましたが、子どもたちが最後まで頑張ってくれたおかげで無事終了する事ができました。

1. 企画の背景

(1) 併設校としての強みと弱み

小中学校併設の小規模校であるため、9年間（幼稚園を含めると最長12年間）同じメンバーで、学校生活を送る。

<強み>お互い気心が知れていて、保護者を含めコミュニケーションがとりやすい。

小さい時からの知り合いがほとんどで、「縦の関係」も比較的良好。

<弱み>縦の関係が良好であるが故、「縦の秩序」に対する意識が希薄。

上の学年の生徒が、下の学年を「引っ張っていく」という意識が希薄。

(2) 地域の中での存在感

地域と学校のおおむね良好であり、地域の方々の意識の中に、「子ども達のために何かをしてあげる」意識が強い。

(ア) その結果、子ども達が自主的に何かに取り組む機会があまりない。

(イ) 子ども達は地域の中では「受け身」でいる機会が多い。

2. 目的

- (1) 子ども達の自主性を育てる
子ども達が自分たちで計画し、実践することにより、自主性を育む。
- (2) 地域の中での存在感（子ども達がヒーロー、ヒロインになれる機会）の創出
 - ① 子ども達の「力」を地域の方々に見て頂く機会を創出する。
 - ② 子ども達の力で地域の人たちに喜んで頂けるものを作り上げる。

3. 運営に関し留意した事

- (1)参加者の募集
 - ① 今回は中学生を対象に希望者のみの参加とした。
 - ② 主に休日を利用して準備を行う事もあり、全員参加とはせず、希望者のみとした。
 - ③ 参加希望者には保護者の同意書を提出させた。
- (2)企画会議
 - ① PTA役員は、会議場（公民館）の手配と、安全管理のために参加するのみとし、基本的には子ども達中心で進めることにした。
 - ② 大まかな予算については説明したが、予算管理は役員が行った。

4. イベント概要

- (1)名 称： 「B r i g h t N i g h t」 ~私たちの町に明るい夜を~
- (2)期 日： 平成 22 年 7 月 24 日（土）
- (3)会 場： 大安寺小中学校グラウンド（地区夏祭り会場横）
- (4)制作個数： 1,894 個
- (5)参加人数： 14 名（全校生徒数 30 名）

5. 事前準備

- (1)廃油の回収
 - ① 資源回収
 - (ア) 従来からの資源回収（新聞、雑誌、空き瓶等）の際に、廃油を回収した。
 - (イ) 地区の全戸に事前に案内を配布した。
 - (ウ) 案内期間が短かったこともあり、十分な量は確保できなかった。
 - ② 地区内のスーパーで出る廃油
地域内にお勤めの保護者の協力により、揚げ物用の廃油を回収した。
- (2)企画会議
 - ① リーダーの選出
立候補者が 1 名であったため、信任投票となった。（満場一致で決定）

- ② イベント概要の決定
 - (ア) イベントの開催期日、場所等を検討
 - (イ) 地区の夏祭り会場で実施したいということになった為、後日PTA役員が「夏祭り実行委員会」と交渉し、了解を得た。
- ③ イベント名称
- ④ 全員がアイデアを出しあった上で、多数決にて決定
- ⑤ WGに分かれての作業
 - (ア) 宣伝担当
 - ◆ ポスター等についての検討
 - (イ) クイズラリー担当
 - ◆ できるだけ多くの方に参加してもらえるような仕組み作り
 - ◆ 問題の検討、解答用紙等の準備
 - (ウ) 参加・キャンドル作り担当
 - ◆ 制作個数の検討
 - ◆ 当日の安全管理（作業時の服装など）を検討
- ⑥ 配置・デザインの検討
- ⑦ WGに分かれての作業
 - (ア) 配置・デザインの検討
 - (イ) メインとなる立体展示の検討
 - (ウ) その他のデザイン検討
- ⑧ エコキャンドルの試作
 - (ア) エコキャンドルの試作
 - (イ) 油の固まり始める温度を検証
 - (ウ) 芯の材質、太さ、長さ等を検証
 - (エ) 燃焼時間を検証



6. 事前準備

(1) ピラミッドの組み立て

- ① 事前に加工しておいた木材を組み立てた。(危険な作業は役員が補助)
- ② 地面に線を描き、その上に並べていった。
- ③ 安全のためロープを設置した。

(2) 点火

- ① 当日は夏祭りでもあるので、浴衣を着たい女子生徒もいたが、安全性を考え、Tシャツで作業する事とした。
- ② 髪の毛の長い女子は、髪を結んで作業する事とした。



7. 子どもたちの感想

- (1) 今までなかったイベントを自分たちが最初に作ることが出来て良かったです。
 - (2) キャンドルのそばにたくさんの方が来てくれ、クイズラリーも人が絶えなかったので、地域の人に認めてもらえたんだなと思いました。
 - (3) 普段なら大人の方が決めた事を機械的にしているだけだけど、自分たちで企画して実行できたのがとても新鮮で嬉しかったです。
 - (4) 当日は自分が思った以上の方が来てくれて嬉しかったです。
 - (5) 初めての会議の時はあまりよく分からなかったけど、毎回集まって話し合いをしてみると、いろんな意見が出て、楽しかったです。
8. 暑い中キャンドルを作り、本当に大変でしたが、本番の時に点灯してみると本当にきれ

いで、よかったです。

9. 今後の課題

(1) 継続性

- ① 今回はトライアルとして取り組んだが、今後も継続していくためにはサポートする側（PTA役員）の役割分担等をシステム化する必要がある。
- ② 子ども達は、上級生（経験者）が下級生（初心者）へとそのノウハウを引き継いでいくことが可能だと考えるが、PTA役員においては引き継ぎルールの設定が必要。

(2) 独自性の確保

- ① 中学生が主体（自分達で考え、自分達で創り上げる）イベントであり続けるべき。
- ② イベントの規模を大きくしようとするれば、地域全体でのイベントに格上げすることも視野に入ってくるが、その場合でも、中学生主体のイベントとして、大人はサポートに徹するべき。
- ③ 地域内の各種団体との調整が必要。従来からの資源回収（新聞、雑誌、空き瓶等）の際に、廃油を回収



【質疑応答】発表校 福井市大安寺幼小中学校PTA

□発表テーマ 「エコキャンドルイベント『Bright Night』～私たちの町に明るい夜を～」

顧問 大嶋氏

質問 以前会長をしていた時にPTAで小学生主体の活動を立ち上げたことがあるが、役員が変わったことで方針が変わり継続が難しくなったことがある。中学生なら継続的な活動を続けていくとも可能であるが、私たちの地区ではジュニアリーダーという育成会などの組織があるが大安寺にはないのか？その活動と重なることがないのか？公民館の協力を得て活動することはできないのか？

酒井副会長

回答 大安寺にも、育成会や大安寺っ子くらぶ（育成会・PTA・学校）という組織があるが、小学生を重点においた活動をしている。中学生主体の活動があまりないので何かできないかというところから始まっている。PTAが主体でやる事業にふさわしい事業であるかどうかは分からないが、とりあえずやってみようというところから始まった。やってみると継続性などの問題が出てきて今後の課題である。併設校の弱みで、10数年同じ環境にいると競争意識が薄いと感じる。競争意識や上下関係を感じてもらおう場として活動していけたらと思い事業を始めたが、保護者や地域の方がこの事業の必要性を感じるかによって今後の継続性とも関わってくると考える。

司会者 中広氏

質問 ブロック内で、地域教育力創造事業ということで予算がもらえるが、ご存じでしょうか？

酒井副会長

回答 地域教育力創造事業のことは把握していなかった。

司会者 中広氏

質問 小規模校ということで先輩後輩の上下関係が薄いことで、弊害がどういう形で表れているのか？

酒井副会長

回答 私的な意見で述べさせていただくと、上の子が下の子を引っ張っていくことが大事だと考える。先輩は手本にならないといけないという意識も薄い。縦割りで仲良くできよいところもあるが、社会や高校などへ行ってから上下関係ができないことで困るのではないかと考える。

P T A ・ 子どもたち ・ 地区のつながりを求めて

～ 「いかなだレース」を通して～

敦賀市立西浦小中学校 P T A

はじめに

敦賀市立西浦小中学校は、昭和36年にそれまであった3つの学校を統合し、西浦小中学校として始まった。

西浦小中学校は、敦賀市の北側、敦賀半島の先端部に位置し、小学生13名、中学生8名、全校21名の小中併設校である。



学校の正面には「北陸のハワイ」といわれる水島が浮かんで見え、風光明媚な海辺の学校である。昭和41年に原電道路が完成し、都市化現象が次第に浸透してきてはいるが、保護者は漁業や民宿経営を中心とした生活を送っている。近年少子化と過疎化により児童生徒数は減少しているが、子ども達は明るく素直で、落ち着いた学校生活を過ごしている。

1 本校 P T A の活動について

現在 P T A 会員は15名。P T A 規約の「学校、家庭、地域の三者の連絡を緊密にし、本校児童生徒の健やかな成長を図り、本校教育力の充実発展を目的とする。」や、学校の教育目標「豊かな心と自ら学ぶ意欲を持った、心身ともにたくましい児童・生徒の育成」の具現化に向けて P T A も3つの面で活動を進めている。

- 「豊かな心を育む」ための活動
- 海辺の地域らしく「海に親しむ、海を守る」ための活動
- 「安全・安心を支える」ための活動

(1) 豊かな心を育む

ふれあい文化祭、オープンスクール、地区合同運動会の3つの行事を中心として、P T A や地域の方々の協力や支援をいただきながら、子どもたちに感謝の心、のびのびと自分を表現する心が育つように取り組んでいる。

① ふれあい文化祭

毎年、11月に実施し、4つの地区のお年寄りを招いて、子ども達の歌や劇の出し物、学習発表を見てもらったり、地区委員が企画運営の喫茶コーナーでゆっくりくつろいでもらったりしている。また、地区の方を講師に招いて子ども達と保護者

とお年寄りが仲良くものづくりを行っている。お年寄りの方が学校を訪れ、子ども達とゆっくりふれあえる場である。

②オープンスクール

授業参観を主として、給食試食会を隔年で行い、親子ドッジボール大会は毎年恒例となっている。他に学校栄養士による講話や、親子防犯教室等を行っている。

③地区合同運動会

西浦地区を離れている大学生や親せきの方も参加する一大行事。地区委員や運動会実行委員が企画する競技では、自分の子・よその子に関係なくペアをつくって競技を楽しむことが恒例となっている。

(2) 海に親しむ・海を守る

西浦は海に面した地域であるため、ここで育った子ども達には海に親しみ、海を守る気持ちを大切にしてほしいという願いがある。そこで、いかだレースを主として、水島清掃、魚料理教室などの行事を行っている。

①いかだレース

今年で19回目を迎え、この地区でしかできないことをしようと始められた行事である。2の項目の「いかだレースの取り組みについて」で詳しく述べたい。

②水島清掃

水島は、夏の敦賀の一番の観光スポットである。海開き前には、浦底・色の二つの地区の皆さんと近くの会社の方たち、そして西浦中学校の生徒達も加わって水島清掃を行っている。

③魚料理教室

お造り、煮付け、唐揚げなどに挑戦している。講師は、PTAでもある漁師さんなどで、機会をとらえて実施している。市内小規模校、5・6年生の交流会でもイカ刺しづくりを行った。他に今年は、西浦名物「たこ飯」を地区のおばあちゃん達に教えてもらう予定である。

(3) 安全・安心を支える

マラソン大会、冬季スポーツ教室において、子ども達が安全にかつ安心してスポーツに取り組めるよう保護者の協力をいただいている。

①マラソン大会

毎年10月に行われるマラソン大会では、子ども達がコースを安全に走れるように地区委員をはじめPTAが各ポイントに立って、誘導しながら応援している。

②冬季スポーツ教室

スキーとスケートを隔年で実施し、たくさんのPTAの方が参加して、安全への配慮をしながら指導し、また一緒に楽しんでいる。

2 いかだレースの取り組みについて

上述のように多くの活動を実施しているが、ここでは西浦ならではの行事「いかだレース」を中心に紹介したい。

(1) 歴史

平成5年、今から18年前に学校から水島までを自分達で製作したいかだを使ってレースをするという「いかだレース」がスタートした。水島は、学校から800メートルのところであり、子ども達は四季折々の水島の姿を見ながら毎日を送っているが、当時、西浦らしい、西浦にしかできない行事をしようと、教員、生徒、PTAが協力して「いかだレース」が産声を上げた。

①材料

PTAが竹や魚網に使う浮きを提供し、最初のころは一緒に製作した。また、安全確保といかだを漕ぐ中学生を、小学生やPTA達が応援のために第1回から保安船としてPTA役員を中心にPTAが漁船を出している。例年、5槽あまりの船が出て、中学生のいかだレースを見守っている。

②指導

いかだを作るにあたって、PTAがロープの結び方や浮きのつけ方や、オールの使用などを教えてきた。回数を重ね、最近では中学生だけで製作できるようになってきた。

(2) レース当日までの動き

①テーマづくり

全員が集まって今年のテーマを決めている。今年は、「楽しく競って西浦らしく」となった。

②チーム分け

昨年度に続き今年も3チームでの実施となり、小中たて割りでメンバーを決定した。

決定後は、いかだの名前を決め、小学生は応援の打合せや小物づくり、中学生はいかだの設計・デザインに取り組む。

③設計・デザイン

2～3人のいかだチームに分かれ、おおよそのいかだの形をデザインする。形が決まると次に実際のサイズ・色を決める。家に帰っておじいちゃんや他地区の船大工さんにアドバイスをもらう生徒もいる。流線形を取り入れながら、チーム名に由来した形を上手に設計している。

④いかだづくり

ここからが夏休みの作業になる。部活が終わると、ほぼ毎日いかだづくりを進めている。玄関前で竹を切ったり、校舎1階の廊下で組み立てたりし始めると、学校全体がいかだレース一色となる。いかだづくりに欠かせない竹は、例年、中学生と

P T A役員が伐採・運搬・裁断している。また、この時期は保護者も学校に出かけ
ては、気がついたことを助言することも多い。



⑤試走

いかだがほぼ出来上がると、学校の前の海で試走をする。何回かの試走を終えて本
番を迎える。

(3) 当日の動き

①保安船に乗船 (児童・P T A)

P T A役員が出した保安船に小学生や応援のP T Aが
乗船。例年、ホームページ等を見て、一般の方の乗船者
もいる。

②レース開始

校長のピストルの合図でいよいよいかだレースのスタ
ートとなる。水島までは800mだが、潮の流れが日によ
って違うので、なかなか思うようには進まないようだ。

保安船の伴走中、船の上から小学生やP T Aは声をから



して応援する。応援も実に気持ちのよいもの
である。

例年、20数分でゴールし、全部のいかだが
ゴールした後は、全員で記念写真を撮って完走
を喜び合う。

その後、参加者全員で西浦のシンボルである
水島海水浴場の清掃を行っている。清掃後は、

レースに使ったいかだを小学生が乗るなどして一遊びする。

(4) いかだレースを終えての感想

小学生からは、「ぼくも、早くいかだを作りたいなあ。」とか、「いっぱい応援でき
て楽しかったよ。」「中学3年生は二人だけなのにすごかった。」などの感想が聞かれ
る。海で大きな声で応援した気持ちよさや中学生に対しての憧れが感じられる。

中学生からは、「とにかくゴールできてよかった。」とか、「早くいかだを仕上げ

もっと練習しておけばよかった。」「小学校の時には見ているだけで実際の感じがわからなかったけど、あんなにしんどいとは思わなかった。」など実際に参加したからこそその感想が聞かれる。自分の兄弟姉妹も経験してきたことを自分も体験し、一回り成長したことの喜びがあふれている。

P T Aからは、「潮の流れと舵さばきを教えたかったなあ。」や、「一人前になったなあ。」など関わりをもっと持てばよかったという気持ちと子ども達を誇らしく思う気持ちが半々である。

教員からは、「1チームが遅れ気味だったが、ゴールできてみんな満足げでよかった。」や、「つくる楽しさ、こぐ大変さそしてやり終えて充実感を感じることができた。」「教員チームに参加してこいだが、西浦ならではのよい行事だ。」とこの行事の良さを実感されているようだった。

3 まとめ

○いかだレースの成果としては以下の点があげられる。

- ・児童・生徒・保護者・教職員を結びつけるよい行事である。
- ・海に親しむよい機会となっている。
- ・19回目を迎え、地域の人達にとっても思い出の行事で、共通の話題となっている。
- ・子ども達の成長を願う気持ちを持って、P T Aや地区が子ども達に関わることができ場がたくさんあるよい行事である。
- ・水島を、ふるさと西浦を、誇りに思う気持ちが育っている。

○課題としては、生徒数が少なくなり、一艘あたりの人数が減って子ども達の負担になっていることや、いかだそのものの数も減って存続も何年か先には難しくなる。しかし、何とか工夫をして続けていきたいと思っている。

今回は「いかだレース」を中心に述べてきたが、その他の行事も活性化させながら地域に根ざすP T A活動を推進していきたいと考えている。

【質疑応答】発表校 敦賀市立西浦小中学校P T A

□発表テーマ「P T A・子どもたち・地区のつながりを求めて」～「いかだレース」を通して

松陵中P T A 松島氏

質問 すばらしい行事です。子どもたちが、家庭や地域から教えてもらうことができたらやましいです。しかし、課題にあげられているように人数が減って、行事が絶えてしまうのではと心配です。私が住んでいる地区も子どもたちの人数が減った時があり、

心配しました。今後、人数が減っていくなかで、いかだレースをやっていけるのかどうかについてどのようにお考えですか。

回答 いかだレースでは、これまでだいたい子どもたちは4人で一艘に乗り、漕いできました。年によっては、生徒数の関係で一艘に2人とか3人で漕ぐ時もありました。一艘あたりの人数を調整して実施し、継続しか考えていません。

発表の補足

最近の子どもたちは泳げない子が多くなってきていますが、海に親しみ、海を恐れないでほしいと思うと同時に、海は怖いものだということも知ってほしいと思います。その願いもこめてのいかだレースでもあります。

「角鹿っ子」のためにPTAのできるごと

伝統を継承している学校

敦賀市立角鹿中学校PTA

はじめに

昭和34年に生徒数増加により気比中学校から分離独立した角鹿中学校は、昭和38年には生徒数が1,000名を超える大規模校でした。しかし、その後徐々に生徒数が減少していき、最近では200名ほどになっています。

1学年2～3クラスの本校では、生徒・職員・保護者が親密な関係にあり、角鹿中学校のスローガン「輝け角鹿 ～ 大きくなろう 強くなろう 幸福になろう ～」のもとに、三位一体となり50年を超える歴史と伝統の継承、この規模の学校ならではの特色を活かした活動をおこなっています。新聞で報道発表された統廃合の問題を機に、改めてPTA活動を見直し、家庭・学校・地域のつながりを深めようという気運が高まっています。

1 PTA活動の具体的目標

(1) 生徒・職員・保護者が一体感を感じる活動の推進

① 生徒・職員・保護者が共感できる活動

共に語り・行動し・明日に向かう姿勢

② 全校生徒を知る活動

あいさつ運動

学校行事への積極的な支援活動

③ PTA活動が積極的に行える環境整備

地域人材・施設の協力要請

各団体行事への積極的な参加

各地区・各団体行事・地区体育協会・スポーツ少年団との連携



2 PTA組織の強化

(1) 地域連携委員会の設置

①設置 平成22年度

②目的 地域との更なる親密な関係の構築

③背景 平成21年度に気比中学校との統合案が出され、その対応にあたり、区長会・校区小学校PTA・同窓会等に呼び掛け、幾度も会議を開き、協議を重

ねた。今後地域とより親密な関係を構築することが必要であることを痛感し、定期的な情報・意見交換の場を設けるため、本委員会の新設に至った。

(2) 生徒とPTAの更なる“絆”

- ①あいさつ運動・・・毎月第3水曜日7：15から30分間実施
あいさつの大切さ、あいさつは“会話”の第一歩、生徒との交流
- ②学校行事への参加
合唱コンクールに参加…PTAも生徒に負けないように練習をして発表
体育大会参加…PTA種目の実施（親子綱引き・親子対抗大玉送り）
親子フォークダンスの実施
- ③各種講習会の開催
1年に1～2度「親子料理教室」「性教育講演会」など、講師の先生を招いて実施



3 伝統の継承活動

(1) 50周年を迎えての支援行事

- ①「創立50周年を祝う会」
式典参加
全校生徒の航空写真を全校生徒に配付



②記念講演会開催

敦賀気比高校卒業の東京読売巨人軍内海哲也投手による講演会を実施
演題「夢の実現」についての講演のあと、質疑応答
その後野球部員とキャッチボール等交流の時間を設定



(2) 無人購買「フレンズ」の支援活動

生徒会購買委員会が運営・管理
お金を入れる箱・品物のみが置いてある無人購買「フレンズ」
利用者各自が品物を取り、代金を入れ、記帳する
収支合致「±0」が、現在約900日継続している
PTA行事など保護者来校時は、保護者も利用可



(3) フォークダンス

給食配膳時間に、当番以外の生徒が体育館で「フォークダンス」を行う。
効率よい配膳と男女間の好ましい関係づくりに

効果をあげている。

【質疑応答】発表校 敦賀市立角鹿中学校PTA

□発表テーマ 「角鹿っ子のためにPTAのできること 伝統を継承している学校」

司会 浅野 好一 氏

質問 小中学校連携の活動はどんなことをしましたか。

角鹿中学校副会長 井筒 務

回答 地域連携推進会議の中で、校区内の小中学校の代表だけではなく、校区内各種団体、角鹿中学校同窓会、北地区区町会、東郷地区区町会、東浦地区区町会などの代表とともに意見交換をしています。内容としましては、会の発足のきっかけにもなりました、角鹿中学校存続問題や通学路などで気がついたことなどなどです。

平成23年度 福井県高等学校PTA指導者研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演内容・講師	実践発表内容・発表校
<p>【 中央 】 6月18日（土） 福井県生活学習館</p>	<p>基調講演 『情報化社会の光と影』～インターネットとケータイの時代に～ 講 師 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授 教育学部附属中・高等学校 校長 大谷 尚 氏</p>	<p>『武生高等学校のPTA活動について』～新たな船出（Take Off）～ 福井県立武生高等学校PTA 『高校教育とPTA活動』 福井県立福井商業高等学校PTA</p>
<p>【 嶺北地区 】 9月10日（土） 福井県生活学習館</p>	<p>基調講演 『キラキラ輝く大人 キラキラ輝く子どもたち』 講 師 （有）せいわ箸店 顧問 木越 和夫 氏</p>	<p>『学校教育とPTA活動』 ～学校との連携を目指して～ 福井県立勝山高等学校PTA 『春江工業高校のPTA活動』 福井県立春江工業高等学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】 9月17日（土） 県立三方青年の家</p>	<p>基調講演 『キラキラ輝く大人 キラキラ輝く子どもたち』 講 師 （有）せいわ箸店 顧問 木越 和夫 氏</p>	<p>『進路指導とPTA』 ～敦高21世紀塾 Sトークの実践～ 福井県立敦賀高等学校PTA</p>

武生高等学校のPTA活動について

～ 新たな船出 (Take Off) ～

福井県立武生高等学校PTA

はじめに

福井県立武生高等学校は、県下有数の進学校でありながら、先人から培ってきた伝統、校風、優れた教育に裏打ちされた「絆」というものを感じさせる高校です。

子どもたちを取巻く環境が大きく変化している現在、子どもたちには人間力が求められています。その人間力を向上させるためには、子どもたち、先生、保護者の三者が互いに尊重しながらしっかりと繋がり、「信頼の絆」を育むことが重要です。

ここでは、「信頼の絆」をキーワードに積極的にPTA活動に取り組んだ武生高等学校PTAについてご紹介します。



1 学校紹介

(1) 本校の概要

本校は、明治31年に創設された福井県武生尋常中学校を前身とし、昭和23年の学制改革により県立武生中学校、県立武生高等女学校、武生町立高等女学校の3校を統合し誕生した高校であり、平成10年には創立百周年を迎えた歴史と伝統を誇る進学校です。

各学年とも、普通科8クラス、理数科1クラスの9クラスで編成されており、普通科は、2年次に文理選択が行われると同時に、生徒の希望と成績を踏まえ、標準的な学習内容に加え、国公立の難関大学を目指した発展・応用的な学習内容を扱うAクラス（文理各1クラス）と、標準的な学習を丁寧に行い、きめ細やかな授業を通じ中堅国公立大学以上を目指すBクラスで構成されています。

平成20年度からは文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されていますが、本校の特色は、理数科に限らず、普通科の生徒も選択できる特設科目を設け、学校全体で先進的な理数教育に取り組んでいるところです。

また、平成23年度の現役国公立大学合格者は207名、うち主要難関国公立10大学合格者は27名という素晴らしい成果を残すとともに、多くの部活動が全国大会で優秀な成績を収めるなど、文武両道にたけ、かつ、地域から厚い信頼を受けている高校です。

(2) 本校の教育方針

国家および社会の有為な形成者としての資質の育成と、真理と正義を愛し、調和のとれた人格の完成をめざす。

- 1 国際社会のなかで、信頼し敬愛しあえる人間の育成。
- 2 勤労と責任を重んじ、克己心の強い人間の育成。
- 3 健康でたくましい心身と情操豊かな人間の育成。
- 4 国民的伝統とすぐれた文化遺産を継承する人間の育成。

2 PTAの組織と活動

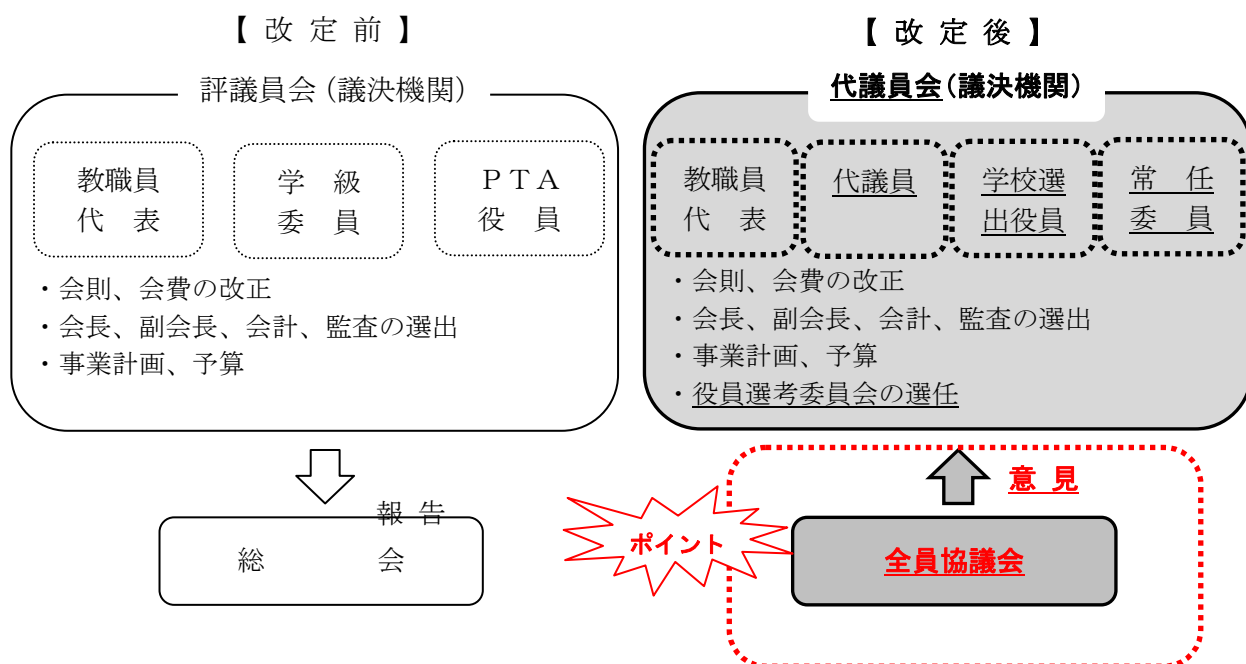
(1) PTA会則の改定

本校のPTA会則は、昨年11月に議決機関において承認を受け、全面改定されました。

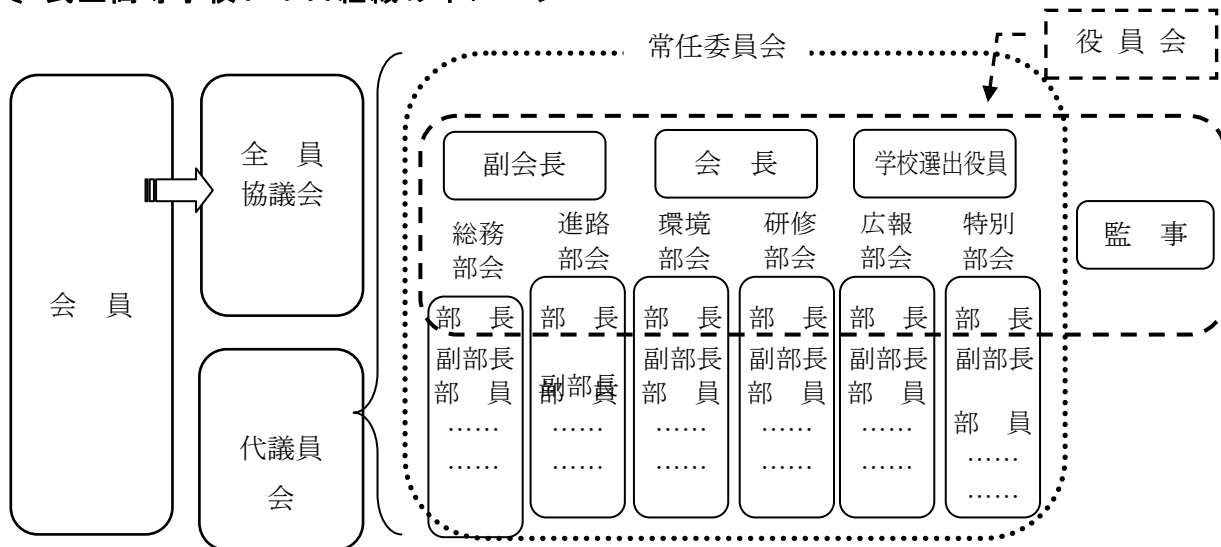
新会則は今年度から施行されることから、本校PTAは新たな船出を迎えることになりました。従前の会則については、他校に誇れる先進的な会則でしたが、時代の経過に伴い、PTAの組織運営と整合しない部分が見受けられるようになったことから、昨年度当初にプロジェクトチームを立ち上げ、会則の改定に取り組みました。

改定の最大のポイントは、下図のとおり、既決事項の報告の場となっていた総会を全員協議会と改め、まず全員協議会で議案の事前説明を行い、保護者から広くご意見をいただき、その意見を参考にして議決機関である代議員会で決議するシステムに変更したところです。

5月14日に開催されました全員協議会では、参加された多くの保護者から貴重なご意見を拝聴することができ、改善すべき点につきましては、事業執行に際し配慮しております。



〔 武生高等学校 P T A 組織のイメージ 〕



(2) 組織構成と活動内容

会長から委嘱を受けた常任委員は、各部会に所属し、各部会が所管する事業の執行にあたっております。また、会長、副会長、学校選出役員、常任委員により常任委員会を構成しています。

① 常任委員会

P T Aの執行機関であり、通常は総務部会、進路部会、環境部会、研修部会、広報部会の5常任部会を設置しており、特別に必要がある場合は、会長は特別部会を設置することができます。常任委員会は、会長が必要に応じて招集することができ、各部会の事業進捗の確認や代議員会に諮る補正予算などについて検討します。

② 総務部会

全員協議会、代議員会および役員会等の企画・運営を行います。今年度は新会則に基づく初年度で、全員協議会では保護者から多くのご意見をいただくことが出来ました。また、昨年度に全面改定された会則を基に、今年度から細則および規則の制定に取り組んでいます。その他、組織運営の効率化を図るためのメーリングリストの作成、合唱コンクールや学校祭などの行事への保護者の参加意識の醸成などを行っています。



全員協議会(5月14日)

③進路部会

高校における進路選択の重要性の認識および職業に対する意識向上を目的とした「先輩と語ろう会」の開催に際し、学校と連携して講師の選定を行います。学年ごとに開催される進路説明会においては、学校側の負担軽減を図るため、受付や駐車場整理に協力しています。また、次年度の課外事業について学校側への要望も行います。



先輩と語ろう会(7月7日)

④環境部会

越前市からの依頼に応じ、見守り活動に人員を派遣するとともに、実施内容を部員に周知しています。また、生徒の通学環境整備や生徒の送迎問題の解決策などの検討を行っています。昨年度に初めて実施し、保護者に大変に好評であったあいさつ運動を夏と秋に実施しました。普段は見ることが出来ない登校の様子を確認しながら大きな声でのあいさつは、保護者自身にも元気を与えているようです。その他、学校と連携し、中学生保護者・生徒向けの学校説明会に保護者を派遣しています。



あいさつ運動

(7月12日, 11月8日)

⑤研修部会

毎年、保護者による大学視察を目的とした研修旅行を実施しています。在学中の本校卒業生と共にキャンパスを視察し、その後、受験対策や大学生活に関する懇談会を通じて、保護者として大学受験に対する心構えなどを学んでいます。また、PTAと学校との連携事業およびPTA単独事業を企画しており、PTA会員の親睦活動も担当しています。



⑥広報部会

P T A広報誌（P T Aだより年2回、むつみ年1回）の発行を行っています。また、P T Aホームページの運営・管理を行っております。保護者に各部会の活動のフレッシュな情報提供を行うことで、保護者に積極的な行事参加を働きかけています。本校ホームページのひとつの特色は、武生高等学校の校歌斉唱の練習ができるようになっております。一度ご覧になってください。



P T Aホームページ

終わりに

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災では、多くの方が被災され、今なお、多くの方が避難生活を余儀なくされております。被災されました方々には心からお見舞い申し上げます。

今回の震災では、日本人一人ひとりが自分なりにできることを考え、被災地の一日も早い復興を目指した支援の輪が全国に広がり、このひたむきな姿は全世界に感動を与えました。と同時に、日本人がいつの間にか忘れかけていた「絆」の素晴らしさを日本人自身が再認識しました。

本校に一歩足を踏み入ると、出会う子どもたちから「こんにちは」と元気な声が飛んできます。挨拶をしてくれる子どもたちの清々しさを見るたび、武生高校の素晴らしさを感じ、時に感動さえ覚えます。最近、環境の変化に順応できない子どもたちがよく問題になりますが、私は、子どもたちの持つ本質は今も昔も変わっていないように思います。

子どもたちと先生、そして保護者がしっかり繋がり、信頼の絆を築くことが、自己実現のために頑張っている子どもたちへの支援に繋がるのではないかと考えております。そのためには、保護者自身も子どもたちと共に育ち、P T A活動に自らが楽しみながら参加できる環境づくりが重要とも感じております。

【質疑応答】発表校 福井県立武生高等学校P T A

□発表テーマ「武生高等学校のP T A活動について～新たな船出（Take Off）～」

質問 総会のありかたについて、変更することにより、意見が出るようになったのか。

回答 以前に比べると活発に意見が出た。予算など今年は6件だった。

質問 あいさつ運動は具体的にどのようにしているのか。

回答 第1回のみで武生駅から数か所で実施した。父兄に参加を募り、20数名の参加があり、生徒会も協力してくれている。来年は年2回計画している。

質問 地域に信頼される学校づくりに取り組んでいるが、送迎に関しての工夫はあるのか。

回答 マナーについて父兄に周知させている。また、学校行事についてチラシを配布している。

高校教育とPTA活動

福井県立福井商業高等学校PTA

本校の概要

- 住所 福井市乾徳4丁目8番19号
- 生徒数 869名 男子257名 女子612名（商業科のみ）
- 全学年 8クラス
（商業科2、流通経済科2、情報処理科2、会計科1、国際経済科1）



本校の歴史

- 明治41年 「福井市立商業学校」創立
- 昭和23年 震災で体育館以外倒壊・水害
- 昭和24年 学区制実施 福井県乾徳高等学校と改名
- 昭和33年 福井県立福井商業高等学校と改名
- 平成17年 冷房装置稼働 新制服制定
- 平成19年 創立100周年記念式典 セミナーハウス福商会館完成

本校教育の信条

- 誠実な人柄で心身共に健康な人を育てる。
- 進取の気象に富む，明朗な人を育てる。
- 商業経営に関する知識技能にすぐれた社会人を育てる。

<夏の甲子園大会で選手宣誓をする野球部主将 >



<学校祭で舞い踊る生徒たち>

<2度目の全米制覇を達成したJETSのメンバー>



<正面玄関に掛けられたお祝いの垂幕>

PTAの組織と活動紹介

会長 1名

副会長 4名 (校長1名)

運営委員 12名

会計監査 2名

学級委員 約50名 (各クラス2名)

☆会長以外のメンバーは、総務・調査広報・進路研修・健全育成の4つの委員会に分かれて所属する。副会長1名 総務委員長1名 総務副委員長2名 学級委員10名前後

☆委員相互・委員と学校は、メールを活用し連絡を取っている。



PTA活動4つの柱

- ① 学校・PTAの連携……学校行事への協力・協賛
- ② エコ活動への協力……環境エネルギー教育の推進
- ③ 広報誌を活用した学校行事の紹介・部活動・PTA活動・学校行事の紹介
- ④ 教育環境整備支援 ……セミナーハウス建設協力・エアコン設置 等

①連携……総務委員会

学校祭模擬店は総務委員会が中心となって企画し、運営委員や一般の会員にも募集を行い、学校祭の2日目の文化祭で模擬店を出店します。

例年、総勢30名のメンバーで仕事を分担して、約600食もの焼きそばを作り販売しています。

例年予約販売を行っているのですが大変な人気で、当日売りの数を見込むのが大変です。数万円の収益

金は生徒会会計の方へ寄付しています。なお本企画は、一般の会員にも広く案内をいたしております。学校行事への保護者の関心を高めてもらい、学校に気軽に足を運んでいただく機会にさせていただきたいと考えております。



①連携……健全育成委員会

生活指導部と連携をとりながら健全育成委員会が中心となって年に2回学校付近の交通安全街頭指導を行っています。

学校周辺には細い路地等も多く、交通事故が起きやすい危険な箇所もありますので、交通安全への意識付けの意味で行っております。また、夏祭り期間中には、花火などで夜出歩く機会も増えますので福井市内の繁華街を中心に巡視を行なっています。

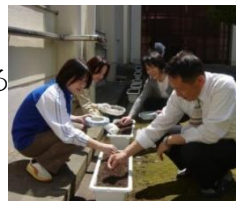


②エコ活動・・・進路研修委員会

はじめにペットボトル搬出作業です。
これは進路研修委員会が中心となり、
美化委員会と合同で実施する企画です。
保健部の教員や生徒とPTAとが一緒にな
学校で回収したペットボトルを業者に納入するもので、
得られた資金を生徒会活動に利用しています。



ただ、最近ではペットボトル納入単価が下落したため
大きな収益面は見込めませんが、環境教育を実践する
という面で貢献を果たしていると喜んでいきます。
次にグリーンカーテン事業です。



ゴーヤやアサガオなど、つる性の植物をプランターで栽培して
グリーンカーテンを作り、直射日光を避けることで冷房コストの節約、ひいては地球
温暖化防止に役立てようとしたものです。同じような企画は県や市の公共施設で実施
されています。本年度は震災の影響で経済産業省からも節電目標が発表されており、
このような運動は全国的に広がりつつあります。本校ではいち早くこのような事業に
取り組みました。今年は家庭クラブに日々の水やりをお願いして引き継いでいこうと
計画しています。

③広報・・・調査広報委員会

調査広報部会を中心に年に2回の割合（7月・3月）でPTAだよりを発刊してお
ります。

本年7月で65号を迎えます。
部活動紹介 学校祭イベント
創立100周年記念特別企画など、
誌面もさらに充実してきました。



④教育環境整備支援

●セミナーハウス福商会館は100周年記念行事として、同窓会と協力し、一昨年建
設いたしました。部活動の合宿所としての機能はもちろん 各種研修会・PTAや同
窓会の会合等いろいろな目的に利用しております。

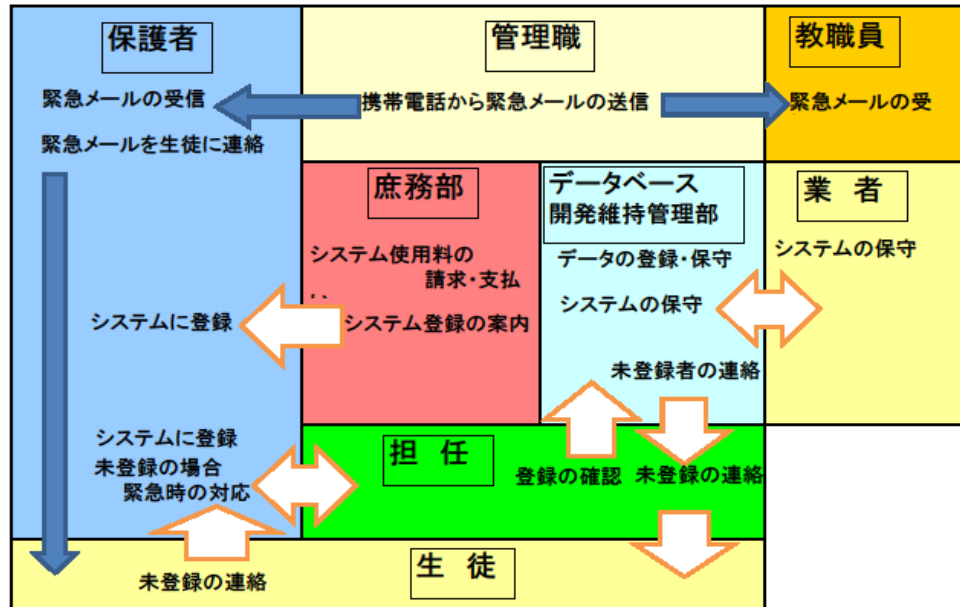
●普通教室のエアコン設置につきましては、福井県内では比較的早い平成17年度に全
教室を完全冷房化しました。通常タイプのクーラーを導入することで、学習環境も向
上し快適に勉強に取り組めるようになりました。

●23度はPTAメール配信システムを稼働し、学校行事や緊急連絡およびPTA活
動の連絡に活用しています。

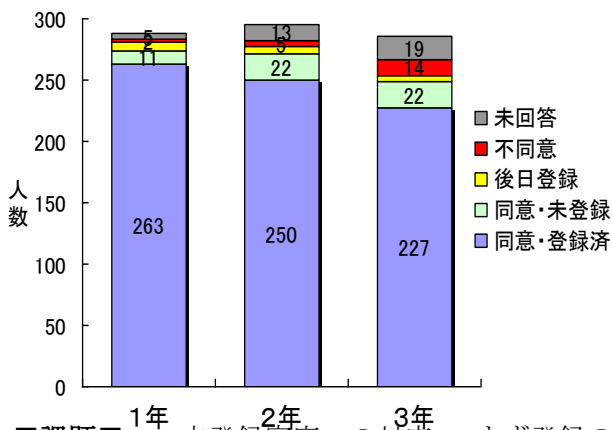
平成23年度 PTAメール配信システムの導入

- ・ 本年1月31日の豪雪
- ・ 臨時休校の連絡不徹底
- ・ 従来の緊急連絡網の限界 メール配信システムの新規導入を決定
- ・ 今年度より予算化 利用開始
- ・ 緊急連絡以外の用途→PTA行事の情宣等・学校行事の連絡

緊急メール配信システム 組織図



学年別加入率



加入率は1年91.3%、2年84.7%、3年79.4%、教職員を含めて81.9%です。QRコードからの自動登録がiPhoneではできなかったり、加入手順を書いた用紙をなくしてしまったり、生徒経由のため文書が保護者の手許まで届いていなかったりなどの理由で登録いただいていないPTA会員が100名弱おられます。

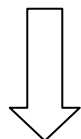
■課題■ 未登録家庭への対応・・・まず登録の再度呼び掛けとして、1学期保護者会で業者によるブースを設けて直接登録をお願いします。都合によりどうしても登録いただけない方への対応として、従来の電話連絡をしていきたいと思います。しかし、緊急以外の情報の共有化は難しいので、出来るだけ登録のお願いを呼び掛けていきます。100%加入

は難しいと思いますが、1年PTAのように90%は超えるよう工夫していきたいと思
います。

◇学校との連携◇



◇情報の共有◇



信頼・安心・感謝・喜び



生徒の笑顔・元気



学校生活の充実・家庭生活の充実

生かされていることに感謝し仲間とともに頑張る福商PTA組織

PTA活動で学校との連携から情報の共有化を徹底する事により、学校と家庭の信頼関係が生まれ、生徒の学校生活の充実に結びつきます。そしてPTA活動を義務と捉えるのではなく、親としての当然の権利、或いは喜びという風に再定義し、多くの方に楽しんで参加いただきたいと願っております。3.11の大惨事について、これから先、決して忘れる事のないように、折を見て触れさせていかなければならないと思います。PTAの方々にはこの大惨事によって受けた使命を念頭に置いていただき、PTAという仲間ですぐ支え合うことでその責任を成し得る活動に取り組めると信じています！福井商業高校PTAは、生かされている事に感謝し、子どもの笑顔から元気をもらい、仲間と共に頑張ってまいります。がんばろう日本！がんばろう福商！



「学校教育とPTA活動」～学校との連携を目指して～

福井県立勝山高等学校PTA

はじめに

勝山市は人口約27000人の小さな自治体で、周囲を白山に抱かれた加越国境と九頭竜川に囲まれた自然豊かな町です。

2007年、アメリカ経済誌フォーブスは、勝山市を「世界で9番目にクリーンな都市」と紹介しました。さらに平成24年5月には、第20回環境自治体会議が福井県立恐竜博物館で開かれる予定です。この県立恐竜博物館には、年間約40万人の観光客が訪れます。また、勝山市で発掘される恐竜化石は、日本国内の約8割を占めています。

また勝山市には、中世に白山信仰で栄えた国史跡白山平泉寺旧境内があります。この白山を中心とするエリアを「霊峰白山と山麓の文化的景観」というテーマで世界遺産登録に向けて、石川県、岐阜県と連携し、積極的に取り組んでいます。

冬季レジャー施設として日本一の規模をほこるスキージャム勝山があります。多くの若者の人気スポットになっていますが、夏季も花畑や芝生広場などでレクリエーションを楽しむ家族連れなどでにぎわい、通年型のリゾート地になっています。

産業面では、明治時代から繊維、特に羽二重織物で栄えました。その象徴として平成19年にオープンした「はたや記念館 ゆめおーれ勝山」があります。この施設は、国の近代化産業遺産に指定されており、街中に観光客を呼び込む核施設として期待されています。

以上、勝山市の紹介をさせていただきました。ぜひ一度、当市にお越しいただきたいと思っております。

1 本校の概要

私たちの勝山高校は、自然豊かな歴史と環境に包まれた中にあり、学校の雰囲気も比較的落ち着いた状況にあります。

本校は昭和23年に、全日制課程普通科・家庭科の高校（計440名）として開校しました。まもなく定時制課程、商業科、農業科も開設されましたが、昭和38年に農業科が廃止、平成元年には商業科が募集停止、平成14年には定時制課程が廃止になりました。現在は、全日制課程普通科高校となっています。



今年度の生徒数は451名で、クラス数は2年生と3年生が4クラス、1年生が5クラスの計13クラスです。近年、勝山市および周辺自治体の小・中学生数の減少が著しいため、本校の定員が削減され、生徒数も減少傾向にあります。また、本年度より奥越地区の高校再編が実施され、平成25年に勝山市には本校のみとなります。

生徒の出身中学校は、勝山市内の3中学校で93.5%、隣接する吉田郡内の中学校が4.2%、大野市内の中学校が1.1%、その他の中学校が1.3%となっており、いわゆる地域に密着した学校であるといえます。通学方法は、ほとんどの生徒が市内から通っているため、全校生徒の約63%が自転車通学、約21%が徒歩通学で、家族の送迎や電車通学の生徒が約16%います。

本校は、開校当時から進学校としての実績を残しています。全体の約97%の生徒が大学や短大、専門学校への進学を志しており、公務員等の就職率は2.7%です。近年は特に国公立大学への進学率が高く、この春卒業した生徒のうち33.3%が国公立の大学に進学しています。

部活動も非常に盛んで、90%近い加入率があります。県内大会をはじめ北信越大会や全国大会で上位入賞を果たしている部もあります。運動部は11種目で、男女合わせて17の部があります。特にバドミントン競技は地域を代表するスポーツでもあり、バドミントン部は男女ともインターハイや国体で好成績を収めています。また陸上部やスキー部でも、インターハイで活躍する選手が育っています。平成21年には、女子走り幅跳びで北信越新記録を出し、インターハイで2位に入賞する選手もいました。

多様化する生徒の希望もあり、柔道・剣道・水泳などの種目で大会に参加できるよう、臨時的な部活動として対応しています。

文化部は5つの部があります。特に、日本文化部は、平成19年度全国高等学校総合文化祭の和太鼓で郷土芸能部門最優秀賞、文部科学大臣賞を受賞しました。文化関係の部活動でも優秀な成績を収めています。

右の写真は本年度、岩手県で開催された全国総合文化祭のものです。今回の全国総合文化祭では、被災され避難されている方々に演奏を聞いていただく機会を作り、ボランティア演奏会も実施しました。



2 PTA活動について

平成21年度まで本校のPTAは、総務委員会、広報委員会、健全育成委員会、進路対策委員会の4つの委員会と、学年ごとの学年委員会で構成していましたが、生徒数・

クラス数等の減少により委員会の精選を実施し、平成22年より、健全育成委員会を総務委員会にまとめ、それにともない副会長を4名から3名に減らしました。

総務委員会では、PTA全体の運営や健全な学習環境や生活環境を守るための事業を行っています。広報委員会ではPTA会報の発行、進路対策委員会では進路説明会や社会人ガイダンス、面接指導などを行っています。

(1) 総務委員会

総務委員会では、①交通安全指導、②祭礼時の巡視活動、③全国大会の出場の激励、④あいさつ運動、⑤教育講演会、⑥制服リサイクルなどを行っています。以前行っていた学校祭での保護者表彰等は精選しました。

①交通安全指導

多くの生徒が地元出身者のため、自転車通学が多く、通学時間になると学校近くの主要道路が込み合います。そのため、毎年5月下旬に4日間、学校近くの交差点3か所で、教員2名、総務委員1～2名が8時～8時25分まで交通安全指導を行います。勝山地区補導委員会の協力を得ながら合同で実施します。

②祭礼時の巡視活動

毎年、9月17・18日に行われる神明神社祭礼の際に、防犯の一助になるよう巡視を行っています。学校全体としては、ここ数年間非常に落ち着いた状況にあり、子どもたちの生活態度等に特に大きな問題は起きていませんが、このような活動を私たちの先輩がこれまで継続して実践してきていただいたおかげであると思っています。

③全国大会の出場等の激励

部活動で全国大会への出場を果たした場合に、懸垂幕を市内のショッピングセンターに掲げて激励しています。また、全国大会で優勝・準優勝といった目覚ましい成果を上げた場合には、生徒玄関に横断幕を掲げ健闘を称えています。

④挨拶運動

秋の交通安全指導に合わせて9月に4日間、実施しています。教職員と総務委員2～3名が生徒玄関前に立ち、生徒が登校の様子を見守りながら挨拶を行っています。私たち保護者が校内を歩いていると、ほとんどの生徒が挨拶をしてくれることで、大きな成果を上げていることを実感しています。

⑤教育講演会

思春期・青年期の子どもに対する理解や接し方、あるいは子どもたちを取り巻く環境等について学ぶ機会として、保護者対象に年1回実施しています。本年度は、PTA総会時に教育講演会を実施し、前川ちよの先生に「10代の生と性を考える」とい



う演題をお願いしました。

⑥制服リサイクル運動

平成22年度3月の新入生登校日に行いました。
制服の他、体操服や柔道着なども対象に行い、とても好評でした。

(2) 広報委員会

広報委員会では1学期と2学期の保護者懇談会の際に、年2回の「勝高PTAだより」を発行しています。前期の内容はPTA関係や教職員関係、部活動や学校行事の生徒関係が中心です。後期ではPTA行事の報告や学校祭、修学旅行の内容が中心になっています。PTA発刊の目的は下記の2つです。

- ・本校の教育活動やPTA活動などを、保護者を含めた地域住民に知ってもらうことにより、これらの活動への積極的な参加・協力、活動の推進につなげる。
- ・開かれた学校づくりや地域住民とのコミュニケーションツールの役割を果たす。

また、勝山高校PTAだよりを多くの人に読んでもらうために下記の4つの項目について重点的に改善しました。

- ・カラー印刷にする。(平成21年56号から)
- ・文章を少なく写真を多くする。
- ・写真を大きくする。
- ・内容に変化を持たせるなどの工夫をする。

(3) 進路対策委員会

主な活動は、①第3学年保護者対象進路説明会、②就職希望者模擬面接指導、③進学希望者模擬面接指導、④社会人講師による進路ガイダンス(社会人からのアドバイス)、⑤第2学年保護者研修会です。

①第3学年保護者対象進路説明会

本年度6月に実施しました。進路説明会の司会進行、受付、会場準備等を行っています。

②就職希望者模擬面接指導及び③進学希望者模擬面接指導

就職を希望する生徒や推薦入試やAO入試の希望者を対象に模擬面接を実施し、アドバイスをを行っています。模擬面接を受けた生徒からも緊張感が違うなどといった感想をいただき、本番に近い体験ができているようです。



④社会人講師による進路ガイダンス

第1学年の生徒を対象に実施しています。社会人講師によるアドバイスについて、色々な職種の講師の紹介を行っています。

⑤第2学年保護者研修会

進路説明会の受付や会場準備を行っています。本年度は11月に実施されました。

3 課題

(1) 予算の不足について

生徒数、会員数の減少が著しいため、PTA予算の縮小化が避けられません。特に部活動関係では、毎年優秀な成績を収めているにも関わらず、県外大会旅費の補助率を下げざるを得ない状況にあります。今後、予算配分等の見直しを検討していく必要があります。

(2) 高校再編による生徒の多様化

平成22年度までは、市内の中学3年生の約6割が入学していたが、平成25年度は、高校再編により市内にある高校が勝山高校の一つだけになることから、約7割を超える生徒の入学が見込まれています。小規模校ながら多様な生徒が入学してくることになり、健全育成に関するPTAとしての取り組みもますます重要になると考えています。

(3) 保護者の連携

本校は近年、学校全体としては落ち着いているものの、一部では携帯電話やインターネットに絡んだトラブルも発生しています。保護者は、携帯電話を持たせることについて、親の責任を自覚する必要があるのではないかと考えます。

本校は地域の学校であり、保護者間の共通理解や連携が得やすいという利点があります。それを生かしつつ、子どもたちの健全な育成のために、家庭、地域、学校それぞれの連携をより深め、教育力を高めていきたいと考えています。

4 まとめ

本校の生徒は、先生方の指導により文武両面で他校に劣らない好成績を残しています。生徒自身も切磋琢磨し、学習活動や部活動に積極的に取り組んでいます。スカート丈の短さ等、一部で規律意識の低下が見られる部分もありますが、祭礼などで遅くまで徘徊する生徒もなく、毎日の挨拶もきちんとできている状況にあります。

現在の比較的安定した教育環境は、小学校や中学校における指導やPTAの取り組み、また地域の子ども会活動などの延長線上にあるということはいまでもありません。PTA活動を進めるにあたっては、このような地域力やコミュニケーションを十分に生

かし、取り組んでいかなければならないと考えています。

本校PTAでは、保護者と生徒、また学校とのより良い関係を築きつつ、「地域に密着した、地域住民に信頼される学校」をめざしています。

【質疑応答】発表校 福井県立勝山高等学校PTA

□発表テーマ「学校教育とPTA活動」～学校との連携を目指して

坂井農業

質問 制服のリサイクルについて、どのようにしたのか？

回答 制服のリサイクル運動はここ数年取り組んでいる活動であり、少しずつではありますが、好評をいただいています。昨年度は、新入生を対象に制服等リサイクル交換会を、3月18日の新入生の登校日に行いました。対象品目は、指定男女ブレザー、ネクタイ、柔道着です。引き取りや引き渡しは勿論無償です。交換会の準備として、提供物の状況を調べるアンケートを事前に実施し、提供者には、洗濯やクリーニングのご協力もお願いしています。仲の良い母親間では頻繁に譲り合っているようですが、物を大切にするという視点から、PTAとしても、今後も続けていきたいと考えています。卒業生からいかに多く回収出来るかが今後の課題です。

春江工業高校のPTA活動

福井県立春江工業高等学校PTA

はじめに

平成23年度福井県高等学校PTA指導者地区別研修会(嶺北地区)において本校のPTA活動について発表したことを報告いたします。生徒の様子や学校の雰囲気等がご理解いただければ幸いです。

1 春江工業高校について

本校は、「自主・創造・友愛」の校訓のもと、昭和38年、坂井市春江町に開校した工業高等学校です。当初は機械科・電気科の2学科でしたが、昭和46年に自動車科、平成5年に情報システム科が設置され、4学科体制になり、現在407名(内女子11名)が学んでいます。ほとんどの生徒は卒業後、地元に残り、地域の活性化の担い手として頑張っています。

2 部活動について

本校は、「ものづくりはひとづくり」をモットーに、「自ら創意工夫し学ぶこと」また「魅力ある学校づくり」を目指しており、ものづくりを主体とした部活動等も盛んな学校です。

ソーラーラジコンカー大会やロボットコンテストなどでは、全国大会で優秀な成績を収めています。特に「全国ソーラーラジコンカー大会」では、自動車部のチームが昨年全国優勝の快挙を為しとげ、新聞やテレビで話題になりました。

また、ロボットコンテストにおいても、電気チャレンジ部や技術部が県大会では常に上位を独占しており、全国大会出場の常連校となっています。

運動部も活発で、学校内は常に生徒たちの活気にあふれています。その中でも、この夏大活躍したのが自転車部です。秋田県で行われたインターハイで、3年の野原雅也君が個人スプリントで全国制覇、同じく3年の秋田拓磨君が個人ロードレースで8位入賞、団体でも4キロ追い抜き3位入賞と、こちらもメディアに大きく取りあげられました。

2011 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)
北東北総体



3 春工のものづくりについて

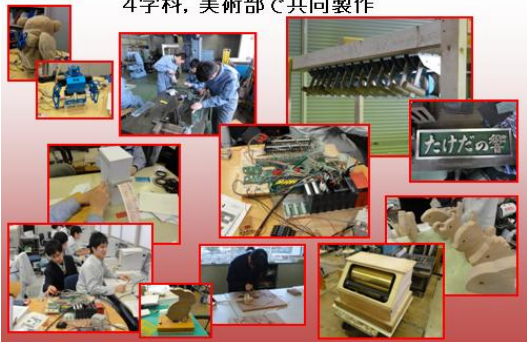
前述しましたが、本校はものづくりが盛んな学校です。学校祭では独創性のある「動くもの」を製作し、発表するという「製作コンクール」が恒例となっており、自動車用バッテリーで動く「猫バス」「電車」「UFOキャッチャー」など楽しい作品や、実用に耐えうるものなど、様々な作品が発表されており、地域のイベントへの出品依頼が絶えることがありません。

文化部の活躍は先ほど紹介しましたが、これらの作品を利用して「サタデーボランティア」を開催し、地域の子供達とのふれあいを通して本校の宣伝活動を行っています。

授業でも、「春工イントラネット」の整備、「ソーラーガーデン」「風力発電装置」「ケーブルカッター」の製作など、工業高校ならではの課題研究が、先生方の熱心な指導の

もとで行われており、生徒たちに自信と誇りを持たせるきっかけとなっています。

4学科, 美術部で共同製作



また、昨年度は全校を上げて取り組んだ「たけだの響き」(自動演奏装置)の製作がメディアでも大きく取り上げられ、平成23年3月に落成式が華々しく執り行われました。模型の作製から製品の完成まで、4学科と美術部の総力戦で成し遂げた素晴らしい作品でした。春江工業高校の技術力のすごさを実感する出来事でした。

4 本校のPTA活動

本校PTAの組織は、役員会、評議員会、総会からなり、活動は、総務・補導・広報の常任委員会に分かれて行っています。

総務委員会では、体育祭のバザーと実習授業参観を主として行い、体育祭バザーでは毎年PTA役員と有志により、体育祭の昼休みに焼きそばと焼き鳥を販売しています。生徒との会話も弾み、良いコミュニケーションが取ることができる場となっています。

補導委員会では、登校時街頭交通指導の協力、春江町夏祭りの巡視、市愛護センター夜間巡視を行っています。

広報委員会では、PTA広報の発行を行っています。家庭と学校をつなぐものという考えのもと、A4版フルカラー8ページを年2回、1学期末と卒業式に発行しています。入学式前の合格者登校日にも、学校やPTAの活動について少しでも理解して貰おうと、1年間に発行した「PTA広報」を配布しています。

学校のホームページにも行事の様子などがアップされておりますのでご覧ください。



総務委員会

体育祭バザー



PTA広報

年2回 発行

広報委員会



5 実習授業参観について

(1) 実習授業参観の意義

「実習授業参観」は職業系の高校ならではのPTA行事であり、「工業高校の実習の授業とはどういうものか見てみたい」、「作業をしている子供の姿を是非一度参観してみたい」という会員の要望により実現し、長年継続している行事です。

学校と子どもへの理解を深め、今後のPTA活動の一助とすることを目的として、計画立案・実践を続けてきました。数年前からは保護者の要望に応じて、土曜日に特別時間割を組み、できるだけ多くの方に来ていただけるよう配慮しています。ここ数年は中学生へのオープンスクールも兼ねて実施しており、参観日当日

は、大勢の人でにぎわいます。数年前の参加者は十数名と少なかったのですが、土曜日への移行などの配慮や、先生方のご協力により、最近では毎年40名前後の参加者がいます。

実習授業の参観は、全員が全科の実習を参観し、科長や担当者あるいは生徒の説明を聞きます。特に生徒による授業の説明は初々しくも頼もしく参観の雰囲気をはほえまじいものにしてれています。また、ロボコン実演は、参観者からの声援と拍手喝采に、生徒達は満足した表情を見せ、大変有意義なものとなっています。



(2) 実習授業参観の成果

アンケートでは全員の方から「大変よかった」、「今後も続けた方がいい」という回答をいただきました。以下にいくつか感想を紹介します。

- ・ 子供達がどんな事を学んでいるのかがわかった。
- ・ 環境が良くてありがたいです。
- ・ 学校内を詳しく見て回れた。実習の様子を説明していただけでよかった。
- ・ 子供は学校での授業内容など、家庭ではあまり話してくれないので、このような機会をきっかけに日常会話でコミュニケーションを取りやすくなる。
- ・ 実習では生徒7～8人に先生1人という事でありがたいです。学校もきれいにされていて良かったです。
- ・ 学校での子供の学習について見学することにより、子供とのコミュニケーションが取りやすくなると思う。
- ・ 親が子供のことに興味を持つ一つの方法としても参考になると思う。
- ・ 家では見せないような生き生きした表情や先生方とよい関係が保たれている様子を見ることができて安心した。



このようなアンケート結果を見るとPTAが積極的に参画した行事により、

- ・ 親子の対話のきっかけになる。
- ・ 学校での子供の様子を知ることで安心する。
- ・ 子供にとっても親が見に来ることで張り合いになる。

など、いろいろな成果が得られていると思います。

(3) 今後の課題

第一の検討課題は参加者数が伸び悩んでいることです。これは生徒から保護者へのスムーズな連絡ができていないことが一因として考えられます。携帯電話を利用したメールの一斉送信やホームページの活用等について、今後検討

が必要なのではないかと思います。

また、実習授業参観は1日で3学年すべての実習を行うことは不可能なので、例年各科の2年生が対象となることが多く、「自分の子供の実習ならば見に行ってもよいが、よその子の実習なら行ってもしょうがない」という意見も頂いています。

実習授業参観日に合わせて、進路説明会を開くなど、さらに充実した取り組みにしていくために、いろいろな方策を検討しなければならないと思います。

6 結びに

高等学校の3年間は、生徒一人一人が多様な経験を通じて心身ともに大きく成長し、自らの人生を豊かにするための力を蓄える極めて貴重な時期です。

本校PTAは、今回ご紹介させていただきましたバザーや実習見学会を継続していく中で、子ども達とほどよい距離を保ちながら、生徒と家庭と学校を空気のような関係で結べるPTA活動を行っていきたいと思います。

今後は新しい取り組みとして、生徒が授業や部活動の一環として行っているボランティアへの参画もPTAとして視野に入れるなど、子供達とともに、同じ目標に向かって活動する中で子供とのコミュニケーションを深めるようなことができればと考えています。

難題の多いPTA活動ではありますが、私たち保護者は、ときには子ども達の目線で、一緒になって活動を行うことも必要であると考えています。

以上

【質疑応答】 発表校 福井県立春江工業高等学校 P T A

□発表テーマ 「春江工業高校のPTA活動」

- ・実習授業の参観に関して(講師 木越 和夫 氏 からのご意見)
 - ・親が子供の実習をしている姿を見ることは大事。子供たちがどのようなことをしているのかを見る(知る)事で家庭での話題ができ、コミュニケーションを取る機会が増える。できるだけ多くの親たちに参加してもらいたいと思います。
- ・その他のご意見
 - ・生徒たちが生き生きと活動している様子がうかがえてよかった。
 - ・ものづくりの学校のすばらしさが伝わってきた。

進路指導とPTA

～敦高21世紀塾 Sトークの実践～

福井県立敦賀高等学校 PTA

1 学校紹介

本校は敦賀市松葉町にあり、名勝「気比の松原」が近くにある。

明治39年に開校され、今年で105年目を迎える伝統校である。戦前戦後を通し、時代の変革期においても、常に進取の気性を持って改革を進めながら時代を切り開いてきた。

本校は、普通科・商業科・情報経理科・定時制教育課程を有する総合性の高校である。全日制課程は843名で、「自主自律」の校訓のもと「文武両道」の精神を發揮して高校生活を過ごしている。生徒たちは大きな夢を持ち、自己実現のため、勉学・部活動・生徒会活動等がんばっている。

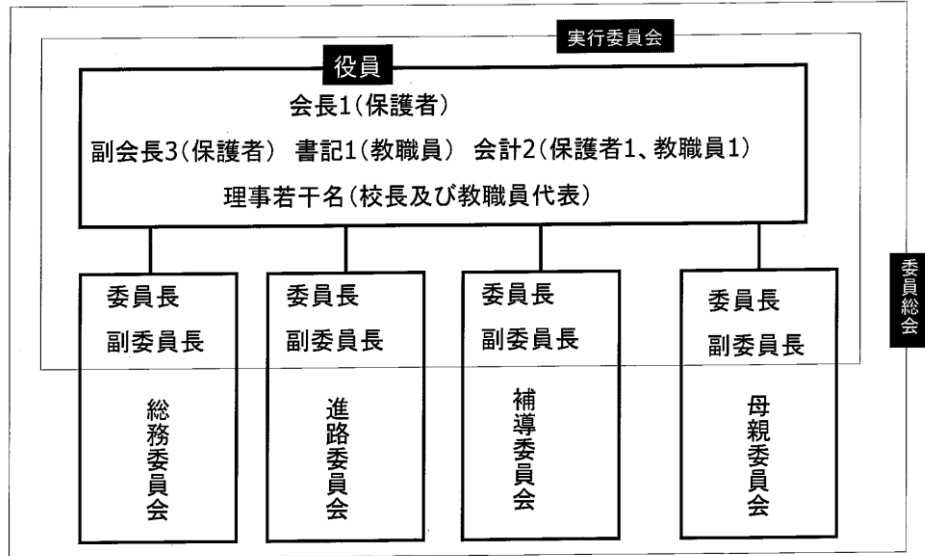
今春は、普通科・商業科・情報経理科を併せた卒業生の207名が上級学校に進学し、64名が就職した。就職率は100%であった。普通科卒業生の30.2%が国公立大学へ進学した。統計が残っている過去14年間で4回、国公立大学合格者が30%を超えたが、今回はその内の1回にあたる。本校では国公立大学への進学熱が高く、自主学习室を完備したり、放課後課外授業を充実させたりと、さらなる飛躍を期してがんばっている。また、部活動では昨年度、運動部・文化部併せて100名を超える生徒が全国大会に出場し、沖縄総体では陸上部の生徒が3位に入賞する活躍をした。今年の北東北総体でも陸上部生徒が2種目、5位入賞を果たし、10月の山口国体でも、陸上部生徒が3位に入った。

本校の教育目標は以下の通りである。

- 1 自主的で責任を重んじ、自らを律することのできる克己心の強い人間の育成
- 2 真理の探究に努めるとともに、科学的で創造性豊かな人間の育成
- 3 文武両道をめざし、心身ともにたくましい人間の育成
- 4 勤労と相互扶助の精神を重んずる心豊かな人間の育成
- 5 地域を担い、世界を拓く人間の育成

2 本校のPTA活動

(1) PTA組織



(2) 平

成 23 年度の主な PTA 事業

[全体] PTA 総会

[総務委員会]

- ① 広報誌「PTA だより」発行 72 号 (7 月) 73 号 (3 月)
- ② 会員研修旅行 9 月 24 日 (土) 近畿大学見学とクーザ
- ③ 「市内 3 校 PTA 合同レクリエーション」への参加
- ④ その他

[進路委員会]

- ① 「S トーク」 1 年生対象 7 月 7 日 (木) 13:00 から
- ② 「大学進学講演会」(年明け) 等の開催
- ③ 就職・進学に関する支援活動
- ④ その他

[補導委員会]

- ① 「市内 3 校合同夏季校外補導巡視」の実施
- ② 交通安全登校指導の実施
- ③ 遊技場などの生徒指導協力申し入れ
- ④ その他

[母親委員会]

- ① 会員間の交流・懇親活動
 - ・ ボксаサイズ教室 10 月 21 日 (金)
 - ・ 料理教室 12 月 3 日 (土)

②その他

- ・生花による卒業生用コサージュ作り

3 敦高21世紀塾 S トークについて

敦賀高校 100 年の歴史と 3 万人ほどのすばらしい先輩は貴重な財産であり、これを本校の教育に役立てたいという思いから S トークは始まった。S トークとは、Senior (人生の先輩)、Splendid (すばらしい)、School (学校)、Special (特別な、個性的な)、Senpai (先輩)、Shinro (進路) の頭文字の S と、話すという意味のトーク (Talk) をあわせたもので、人生の先輩による話を聞くことによって、生徒が 21 世紀に生きるたくましい力をつけて、Splendid (すばらしい) で Special (個性的な) な人生を送ってほしいという願いをこめて名付けられた。

2000 年に第 1 回を実施し、本年で第 12 回となる 1 年生に対する恒例の PTA 行事で、当初はクラス毎に 1 人ずつの講師が受け持ち「仕事とは」「会社での人間関係」「人の対応」などを語っていただいた。

2004 年の第 5 回からは進路選択と職業選択のために役立つようにと、生徒の希望に添う形で、クラスを解いて行っている。また、2008 年の第 9 回からは実施時期を普通科の文理選択の参考になるように 1 年生の 12 月から 1 年生の 7 月に変更した。2001 年からは講演の内容や生徒の感想を報告書にまとめている。

(1) 今年度の S トーク実施までの流れ

PTA	1 年学年会
5 月 31 日 PTA 進路委員会開催 (分野決定、講師推薦)	6 月初旬 希望分野調査
6 月 10 日までに講師決定	
6 月 17 日 派遣願い送付	6 月下旬 生徒役割分担決定
6 月 28 日までに演題等決定	(司会、案内、講師紹介等)
7 月 7 日 S トーク開催	
8 月中旬 礼状・報告書送付	

(2) Sトーク実施要項

2011年度「敦高21世紀塾 Sトーク」実施要項

敦賀高等学校 PTA

1 趣旨

- (1) 人生の先輩による課外授業を通じ現在の生活と将来を考えるための一助とする。
- (2) 望ましい勤労観、職業観を育み、人間としての在り方、生き方を考えさせる。

2 実施学年

敦賀高等学校1年生 7クラス 14講座 (生徒237名参加)

(地方公務員、システムエンジニア、警察官、看護師、ウェブデザイナー、保育士、消防吏員、金融、ケアマネジャー、電気事業、弁護士、旅行社、薬剤師、研究開発)

3 実施日時

平成23年7月7日(木) 13:00~13:15 (講師打ち合わせ)

13:25~14:15 (Sトーク授業)

14:25~15:15 (懇談会・生徒感想文作成)

4 講師

本校のPTA会員および地域社会で活躍されている社会経験の豊かな方に依頼する。

5 Sトーク授業内容

授業時間は45分程度とし、その後5分程度の質問時間を設ける。

授業の進行(司会、講師紹介等)は生徒が行う。

- (1) 授業内容は職業や趣味を通じて、敦高生に是非知ってほしい、あるいは体験してほしいことなどを柱とする。
- (2) 望ましい職業観の育成や進路選択の参考になる内容が望ましいが、必ずしもこだわらない。
- (3) 敦高生に知的好奇心の湧くような内容にする。

6 その他

- (1) 本事業はボランティアで行う。
- (2) 生徒には事前指導を行い、感想文を提出させる。
- (3) 講師との事前打ち合わせを行い、レジュメ等の準備をする。

(3) 2011年度 Sトーク 講師・演題一覧

敬称略				
講座	業 種	演 題	会場	受講者数
①	地方公務員	市役所(窓口)でのしごと&公務員になるまで	1組	24
②	システムエンジニア	システムエンジニアの心構え	第5講義室	15
③	警察官	何か?が何かの役に立つ(改訂版)	4組	17
④	看護師	看護師の仕事～看護ってすばらしい～	第3講義室	20
⑤	ウェブデザイナー	デジタルな仕事を、アナログな心で。	AV	8
⑥	保育士	子どもたちの成長を見守る、やりがいのある仕事	飛躍(大)	44
⑦	消防吏員	消防について	2組	8
⑧	金融	その気があれば何でも出来る!	3組	15
⑨	ケアマネジャー	人との関わりで成長させていただく専門職	第4講義室	15
⑩	電気事業	電気事業のいま	第1講義室	12
⑪	弁護士	弁護士になるまで	5組	13
⑫	旅行社	旅人	6組	11
⑬	薬剤師	薬剤師ってどんな仕事?	7組	26
⑭	研究開発	身近な放射線とガン治療の話 (陽子線治療の話)	飛躍(小)	9

(4) 講師の依頼について

実施初年度は本校の PTA 会員および本校卒業生で社会経験のある方に講師を依頼していたが、現在は本校卒業生にこだわらず、地域社会で活躍されている社会経験の豊かな方にもお願いしている(今年度の講師の中で本校卒業生以外は5名)。業種はなるべく多岐にわたるように配慮している。

5月末の PTA 進路委員会で業種を決定し、PTA 進路委員と学校で6月中旬までに講師を依頼している。

4 まとめ

現在の教育現場では、早い段階から進路意識を植え付けて、自分の10年後、20年後を見渡せるようにすることが求められている。そのためには、さまざまな職種の講師の先生方の話を聞くことはとても良い経験である。PTA がそのネットワークを生

かしてこのSトークを実施することに大変大きな意味がある。

また、懇談会で講師の方々のご感想をお聞きすると、「高校生に話すことで、自分自身のこれまでを振り返る良い機会になった」、「今回うまく伝えきれなかったことを次回はっきり伝えたい」「機会があれば来年も参加したい」等、非常に前向きな感想が多く大変心強く感じた。次年度からも生徒のためにこのSトーク事業を続けていきたい。

生徒の感想から (1)

講座名 ツア-コンダクター

1年

今日、旅行社の林さんから話を聞いて、初めて知った事がたくさん分かりました。まず、初めて知った事は、旅行関係の仕事で資格がとることができるということです。私は旅行関係の仕事には資格はないと思っていました。聞いた2つの資格はどちらも初めて聞きました。

後、添乗員という言葉も初めて聞きました。お客さんが楽しめるようにサポートする仕事というのほとても良い仕事だなと思いました。また旅行社は、色々な人と出会えて、色々な場所に行けて、色々な食べ物が食べられると聞きました。

それを聞いて、旅行関係の仕事は出会いが多いなと思いました。出会うということはとても良いことなので、旅行関係の仕事もいいなと思いました。

今日、林さんの話を聞いてとても良かったと思っています。まだ私は進路を決めていないけど、これからいろいろな職業に興味を持て、自分にあった職業を見つけていきたいです。

今日話をしてくれた林さんには感謝しています。

また、新しい職業の事が分かってとても参考になりました。

今日は本当にありがとうございました！

講座名 電気事業

1年

今日のお話しを聞いて、とても参考になりました。

電力の仕事については、文系か理系かどちらの方がいいのかわからないし、資格が何ののかわからないし、高校生活のうちにはやってみたいがわからないことなどの答えが分かったので安心しました。

電力の仕事は、とても重要であり、国にとって欠かせない大切なものであると改めて実感しました。

そして、地域社会との結びつきを大切にしているということを知りました。地域社会の要請に応え、地域社会に貢献することはとてもいいことだと思います。

私は将来、高校卒業後に電力会社の事務に就きたいと考えています。そのために、ボランティア活動に積極的に取り組み、日々の勉強や部活動をかんがりたいと思います。

特に、電気があるかどうか確かめたいと聞いたので、面接の際に少しでもアピールできるようにこれまでの高校生活を一生懸命かんがりたいと思います。

生徒の感想から (2)

講座名 保育士

1年

今日はお忙しいなかありがとうございます。保育士や幼稚園の先生の遠い昔、それになるまでにどのようなことでしたか。とても具体的に分かりやすく、たです。

一番興味深かったのは、園児が書いた絵です。年齢が小さいと顔から手や足がでていたり、大きい子だと、いろいろと飾りをかいたり、とても見えておもしろかったです。私には4歳の妹がいますが、妹もそんな絵を書いていました。

私は将来、幼稚園の先生になろうと思っています。

今日のお話を聞いて、小さい子どもの成長はほんとうにおもしろいなと思いました。今までにはただ、なると、みたかと思えていたが、具体的なことが分かってこれからはどのように進んでいこうかなということも考えようかなと思いました。

今日は本当にありがとうございます。幼稚園の先生になれるように、日々努力してがんばろうと思います。

講座名 看護師の仕事

1年

今日は、国立病院機構 福岡病院から、石田先生がいろいろお話ししました。

私も将来の夢は看護師と決めているので、今日の石田先生のお話は、とても参考になりました。特に、さらに、看護師に絶対になりたいと改めて思いました。

お話を聞いていて、看護といっても、たくさん役割があることが初めて分かりました。ICU看護師として、一番最初に、検査をとり、病棟看護師として、患者さんの点検をとり、ICUで危篤状態の患者さんと24時間見守るところ、手術看護師として、手術がスムーズに進むように助けることなどがありました。

その中でも、私は、病棟看護師になりたいと思いました。私の兄も中2の時に、陸上骨折をして、病院に入院したことがあり、その時の兄の担当だった看護師さんが、とてもカッコよく見え、私もあこがれて看護師になること決めました。もっと、人の役に立ちたい、助けたいと思いたかった。私が看護師になるために、気をつけていることがあります。それはコミュニケーションです。相手が嫌がる言葉などは、なるべく出さないように気をつけています。

私が、もし、将来大人になったら看護師になったら、病棟看護師として、患者さんの立場を優しく声をかけられる看護師になりたいです。特に、たくさんのお患者さんから、「この人がいい!!」いつもありがとうございます。と言っている看護師になりたいと思っています!!! 今日は、本当にありがとうございます。

【質疑応答と意見交換】発表校 福井県立敦賀高等学校PTA

□発表テーマ「進路指導とPTA～敦高21世紀 Sトークの実践～」

敦賀工業高校PTA会長 新谷氏

質問 職場の生の声を聞かせて生徒達に将来像を育成していくことに興味を持てた。このSトークは1年生の段階で行うということだか、3年生になってこれをもとに実際にその方面へ就職したとか進路を決めたというデータがあったら聞きたい。

敦賀高校 新田教諭

回答 このSトークを聞いて、直接就職に結びついたというデータはないが、自分の思いがより強くなったとか、これをきっかけに真剣に考えなければと思うようになったという生徒の感想もあった。何度か講師をしていただいた方に、その後、個人的に質問や相談を受けたこともあるという話も聞いたのでやはり影響はおおきいのではないかな。

敦賀高等学校PTA会長 池端

回答補足 4、5年前まではSトーク中に寝ている生徒もいたが、ここ数年はほとんどがまじめに聞いている。生徒本人がまじめに聞きたいという意識があるように思う。

敦賀工業高校PTA副会長 奥村氏

質問 今年度Sトークの講師をされた方がここにおられるので、実際の様子や生徒の反応を聞きたい。

敦賀気比高校PTA副会長 角野氏

回答 福井県は薬剤師の数が日本一少ないので、少しでも増やしたいという思いで、3年連続Sトークの講師をしている。生徒達は非常に興味を持って聞いてくれているが、素人が話すには今年のように26人ぐらいが限度で、昨年のように40人もいると後ろの方は寝ていたり何をしているのかわからないので1講座の人数は少ない方がいい。今年から、当校も同じような企画を考えている。

敦賀気比高校PTA副会長 角野氏

質問 Sトークを実施するに当たっての事前指導などを聞きたい。

敦賀高校 新田教諭

回答 企画はPTAで、学年会を中心に取り組む。なるべく多岐にわたる業種を選び、生

徒にアンケートをとり何が聞きたいかで振り分けた後、その仕事についてパソコン・情報誌・業者が出している本などを使って、学部や学校を生徒本人が調べる。年によっては、講座を振り分ける前にすることもある。

『みんなのPTA』

平成23年度 福井県PTA指導者研修会報告書

発 刊 平成24年2月

編 集 **福井県生涯学習センター**
〒918-8135 福井市下六条町14-1

印 刷 大一印刷株式会社
〒910-2142 福井市前波町17-6-1